

2018年度

青山学院大学
FD活動報告書



青山学院大学全学FD委員会

青山学院教育方針

青山学院の教育は
キリスト教信仰にもとづく教育をめざし、
神の前に真実に生き
真理を謙虚に追求し
愛と奉仕の精神をもって
すべての人と社会とに対する責任を
進んで果たす人間の形成を目的とする。

青山学院 スクール・モットー

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World
(聖書 マタイによる福音書 第5章 13～16節より)

青山学院大学の理念

青山学院大学は、「青山学院教育方針」に立脚した、
神と人とに仕え社会に貢献する
「地の塩、世の光」としての教育研究共同体である。
本学は、地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって
自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する。
それは、人類への奉仕をめざす自由で幅広い学問研究を通してなされる。
本学すべての教員、職員、学生は、
相互の人格を尊重し、建学以来の伝統を重んじつつ、
おのれの立場において、
時代の要請に応えうる大学の創出に努める。

2018 年度 青山学院大学 FD 活動報告書 目次

1. はじめに	1
2. 本年度活動一覧	2
3. 新任教職員研修会	4
4. 授業改善のための学生アンケート	14
5. 学生 FD スタッフの活動	21
6. 教育改善支援制度	34
7. 学生意識調査	49
8. FD 講演会	52
9. その他の FD 活動	58
10. 諸規則	71
11. FD 推進委員会及び全学 FD 委員会 委員一覧	73

1. はじめに

全学 FD 委員会委員長

副学長 田中 正郎

本学における FD (Faculty Development) 活動は、「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み」として出発しました。そのため個々の教員の自発的な授業改善から始まり、次第に組織的な授業改善や教育支援活動へと展開されてきました。2003 年度から全学的な授業改善のための学生アンケートがはじまり、2005 年度から FD プロジェクトチームが活動を開始しました。そして、2008 年 10 月から FD 推進委員会、2009 年 4 月から全学 FD 委員会が活動を開始しました。2013 年 4 月には、組織の強化をはかるため教育支援課が発足し、FD 活動の推進を支える体制が整えられました。その後、FD 活動の主体を職員まで拡げ、SD (Staff Development) が加わりました。

2016 年度には、SD 研修会の企画運営を政策・企画課と連携できるようになり、内容が広がりました。2018 年度に、より充実したものとする目的に、私企業 4 社の研修担当部署を訪問調査しました。教育支援課と政策・企画課に加え本部人事部の能力開発支援課の 3 課合同での調査でした。その結果、FD・SD を深耕する観点から、大学を設置する学校法人であることの自覚をもつ時期にきているのではないかと思いました。

2018 年度に、学部・研究科で取り組んでいる教育改善活動を「青山学院大学 FD 活動報告書」として編纂することを構想しました。個々で積み重ねられている取り組みを、組織全体の宝へ昇華させることが目的です。背景には、組織的な FD 活動として、2009 年度に「教育改善・教育プログラム支援制度」がつくられたことがあります。目的は、本学で行われる教育の質的向上をめざす取り組みや新たな教育プログラムの開発を支援することによって教育の改善・改革を進めることでした。2016 年度に「教育改善支援制度」と名称を改め、その精神が現在に引き継がれました。教員個人だけではなく、教職協働や学部横断的なグループ単位で、さまざまな取り組みが行われています。もちろん、この制度によらない個々の教員による教育改善も活発に行われておりその蓄積は、潜在的にたいへん大きなものがあります。しかし、情報が個人に固着しており継承することが難しいという現状があります。

FD 活動の主体は、教員から職員まで、現在では学生も含めた活動になっています。また、その内容は多岐にわたり、現状ではより幅広い活動へと展開してきています。その結果、教育支援課の上位部署である学務部の職務範囲を超えることも増えました。FD・SD 活動の所管事務部署の見直しが必要な時期にきています。

最後に、学生達の夢や希望を大切にして、教員と職員が協働しながら、より豊かで、質の高い教育を実現されようとする皆様方の献身に感謝いたします。全学 FD 委員会として、学生達が心身ともに成長できる場を整えることに努めてゆきたいと思います。

2. 本年度活動一覧

○ 2018 年度 月別活動一覧

	委員会開催	新任教職員研修会	教育改善支援制度	学生意識調査	授業改善のための学生アンケート
4月	4月25日 ①FD推進委員会 ①全学FD委員会	4月3日 第1回開催	(2018年度外部評価委員会全体 講評の発表) 3月8日 公募開始 4月20日 公募締切	学生意識調査・キャリアアプローチ 3月28日～4月11日(教室受 検及び自宅受検) 5月8日～5月21日(追加実施 2・3年生のみ)	
5月	5月16日 ②FD推進委員会		外部評価委員事前審査 5月30日 第1回外部評価委員全体会(審 査・配分額決定) 採択プログラム決定 各プログラム活動開始	5月9日(青山) 2・3年生対象フォローアップ 講座	
6月	6月13日 ③FD推進委員会 ②全学FD委員会			6月29日 事務職員対象結果報告会	
7月	7月11日 ④FD推進委員会			7月4日～24日 結果報告会(各学部)	7月2日～24日 前期アンケート実施 7月27日 前期結果公開
8月					
9月	9月19日 ⑤FD推進委員会 ③全学FD委員会	9月11日 第2回開催		9月13日～29日 4年生調査(9月卒業生)	
10月	10月24日 ⑥FD推進委員会 ④全学FD委員会				
11月	11月21日 ⑦FD推進委員会				
12月	12月19日 ⑧FD推進委員会 ⑤全学FD委員会				12月17日 後期アンケート実施 (～1月21日)
1月	1月23日 ⑨FD推進委員会			1月7日 4年生調査(全4年生)開始 (～3月24日)	1月25日 後期結果公開
2月					
3月	3月6日 ⑩FD推進委員会 ⑥全学FD委員会		外部評価委員事前審査 3月18日 第2回外部評価委員全体会(最 終審査・全体講評作成)		

	FDフォーラム FD講演会	学内研修会	SD講演会・研修会	学生FDスタッフの活動	全国私立大学 FD連携フォーラム	関東圏FD連絡会
4月		4月6日 教室設備説明会				
5月						
6月	6月27日 FDフォーラム 第1回開催			FD作品コンクール 6月25日募集開始 (~7月24日)	6月16日 総会出席	6月21日 連絡会出席
7月		7月11日 第9回プログラム 実施				
8月				8月28日・29日 学生FDサミット2018夏参加		
9月				9月26日 FD作品コンクール 選考結果発表		
10月		12月5日 第10回プログラム 実施				
11月						
12月						
1月			1月23日 第1回FD・SD講演会		1月11日 会員校ミーティング	
2月						
3月				3月21日・22日 学生FDサミット2019春 参加		3月13日 連絡会開催

3. 新任教職員研修会

本学では、大学に新規採用された教員と学院全体で採用された事務職員を対象とした「新任教職員研修会」を年 2 回開催している。

第 1 回は本学就任直後の 4 月初旬に開催され、本学における教育研究活動の概要から FD 活動の紹介、各種手続に関する説明を行い、本学での教育研究活動が円滑に開始できることを目的としている。当日は、専任教員 35 名、専任職員 23 名が参加した。

第 2 回は 9 月中旬～下旬に開催され、前期の授業経験を踏まえ、教育方法の改善に資する契機となる研修を行うべく、外部から講師をお招きし、より実践的な内容の研修会を実施している。2018 年度は、2012～2017 年度に引き続き、杉原真晃先生に講師をお引き受けいただいた。当日は、専任教員 23 名、専任職員 27 名が参加した。

2018年度第1回 大学新任教職員研修会次第

日時 4月3日（火）9：30～11：30

場所 第4会議室（青山キャンパス6号館1階）

司会 全学FD委員会委員長 田中 正郎教授

プログラム

1. 聖書朗読・祈祷

大学宗教部長 塩谷 直也教授

「平和を実現する人々は幸いである、その人たちは神の子と呼ばれる。」（マタイによる福音書 第5章9節）

“Blessed are the peacemakers, for they will be called children of God.” (Matthew 5:9)

(2018年度学院主題聖句)

2. 開会挨拶

副学長 阪本 浩 教授

3. 本学におけるキリスト教教育の土台～礼拝について

大学宗教部長 塩谷 直也 教授

4. 青山スタンダードについて

青山スタンダード教育機構機構長 阪本 浩 教授

5. 本学のFD活動について

全学FD委員会副委員長 中野 昌宏 教授

6. 本学の教育支援体制について

(1) 本学の障がい学生支援について

障がい学生支援センター長 長橋 透 教授

(2) 教育研究システムについて

情報メディアセンター所長 宋 少秋 教授

(3) 事務組織について

大学事務局長 菅野 治男

(4) 学事暦、授業、成績評価等について

学務部部長 馬場 俊和

(5) 研究制度及び研究費等について

研究推進部部長 本橋 正人

(6) 施設設備利用・検収制度について

庶務部施設課長 菊地 大介

7. 閉会挨拶

副学長 田中 正郎 教授

以上



青山学院大学 全学FD委員会
学務部教育支援課

青山学院大学のFD活動



青山学院大学全学FD委員会



1. 基本方針

◇FDとは？

Faculty Development=教員の職能開発
「授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み」

◇教育力の向上は大学の責務

◇青山学院大学のFD活動

単なる授業改善にとどまらず、さまざまな教育支援を組織的に展開

2

本学のFD活動が重視している点

- ◇大学を構成する教員、職員、学生、社会の4者が協力して、組織的に教育の改善を行う
- ◇学生にとって、また教職員にとって「個々が安心して教育目標に向かって取り組むことのできる環境作り」を実現する
- ◇ FD、SD相互のバランスをとりながら、教職員が協力して教育力の向上に努める

※ SD(Staff Development)=職員の職能開発

⇒ 教員、職員が一体となった教育改善へ

3

2. FD組織の発足

2003年度	全学的な授業評価アンケート実施
2005年度	FDプロジェクトチーム発足
2008年4月	大学設置基準改正 第25条の3による <u>FDの組織的活動の義務化</u> (専門職大学院は2003年度、大学院は2007年度、学部は2008年度より義務化)
2008年10月	FD推進委員会設置
2009年3月	全学FD委員会設置
2009年3月	青山学院大学FD規則制定

4

本学のFD組織



全学FD委員会

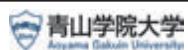
FD推進委員会

内容：FD活動の啓蒙・企画・立案・実行
・授業改善、教育改善支援、啓発活動
構成員：副学長（委員長）1名
学長指名委員（教員より）7名 ※副委員長1名を選出
学長指名委員（職員より）7名

全学教務委員会

内容：教学に関する全学的な調整
<例>学事暦、授業時間の設定、卒業延期制度
構成員：副学長（2名）、宗教部長、青スタ副機構長、学科もしくは教務主任（各学部より1名）学務部長、相模原事務部学務課長

5



FD推進委員会の役割

- 学長のもとに、少人数で機動的な組織を設置する
- 教職員の構想力によって企画立案を進める
- FD活動の啓蒙
- 全学のFD活動を活性化する起動力に
⇒ 全学FD委員会の構成員

6

3. 主なFD活動の紹介

教育改善支援制度による採択テーマ

教育の質を高めるためのプロジェクトを学内公募し、採択されたものに補助金供与

2009年度

- ・シラバスと講義録の統合情報に関する高度活用システムの構築
- ・「科学・技術に関する意識データベース」の構築
- ・各種資格(司書・社会教育主事)教育プログラムの評価モデルの開発
- ・ティーチング＆ラーニング・ポートフォリオに基づく総合的教育支援
- ・大学生に対するリーガルリスク教育

2017年度

- ・学内における学習資源の有機的・運動的活用による授業支援プログラムの構築
- ・教育プログラムPrepaFLEの改良
- ・eラーニングシステムの評価と授業のためのデジタル・ツールボックス
- ・学生意識調査の有効活用・恒常的な運用をめざして

7

全学的な学生意識調査



・調査の目的

- ・大学はカリキュラムや学生支援のるべき姿を検討
- ・学生は学生生活の目標設定、学びと進路のつながりを意識

・学年進行に伴って卒業時調査を含めた経年比較が可能

- ・1年 入学時の意識・期待感の把握、意識変化を測る起点
- ・2年 1年間の学生の満足度・成長感把握
- ・3年 学生の満足度・成長感把握、就職への動機づけ
- ・4年 4年間の学生生活の満足度把握、教育改善の充実につなげる

・学生個人へのフィードバック

- ・個人結果報告書の返却、フォローアップ講座

・結果 「学生の意識調査からみる青山学院大学の学生像」 「この4年間の軌跡」(⇒大学HP)

8

FDハンドブックの制作



青山学院大学 FDハンドブック



本学の教育に関する各種
情報、授業改善アイディア、
「授業改善のための学生アンケート」の活用法等をまとめたFDハンドブック

青山学院大学 生徒行動規範

青山学院大学 FD活動マスコット
【FDEago(エフディーゴ)】

9

教員のための英語研修プログラム



- ・教員が英語での指導や講義、プレゼンテーションを行うため、必要な英語表現、スキル、手法を実践的に学ぶプログラム
- ・第7回「講義とプレゼンテーション(導入)」(2017年6月)相模原キャンパス開講
- ・第8回「アカデミック・ライティング(発展)」(2017年7月)青山キャンパス開講

第7回英語研修プログラムの様子(相模原キャンパス)



11

授業アンケートのWEB入力



2016年度より、WEBアンケート調査方式にて実施

- ・アンケート所要時間の短縮(授業時間内のアンケート実施)
- ・アンケート実施方法の統一

等

「授業改善のための学生アンケート」

アンケート項目例(FDハンドブックP.7)

- ・受講理由(Q1)
- ・予習・復習時間(Q4)
- ・授業の難易度(Q6)
- ・説明の分かりやすさ(Q8)
- ・授業の到達目標の達成状況(Q14)

アンケート平均回答率(学部)

2016年度

前期24.4% 後期28.1%

2017年度

前期35.8% 後期29.1%

* WEBアンケート調査の実施手順はFDハンドブックP.59を参照

12

「青学に入学して良かったと感じること」を
テーマとした「Happyくらす作品コンクール」

- 日々の授業や課外活動、短期研修、留学などを通じて得た自身の成長や発見、感動など、青学に入学して良かったと思った経験を作品にしたものを作成してもらいました。
- 2017年度審査結果 優秀賞2作品、佳作2作品。学生FDスタッフが選考を行いました。

～優秀賞作品～
「私の世界を広げた青山学院大学」 文学部史学科 2年

「...青山スタンダードの科目では学部学科が様々な人たちとの出会いがあります。科目によってはグループワークを行い発表するというものもありますが、その科目を取っていないから全く接点がなかった人とも人間関係を築くことができました。(中略)青山学院大学の勉強では、レポートやテストなど大変なこともありますですが、2年生になった今、幅広い知識と人間関係を得ることができ、私の世界は広がりました。今後、大学院に進むこと、博物館学芸員になること、文部科学省、文化庁などに勤めること、語学を生かして商社に勤めること等、将来の進路を思い描いています。また、どうするか答えは出でていませんが、日々目の前にあることに全力投球し、考えていくことを思っています。」(⇒大学HP)

13

学生FD活動について

青山学院大学 Aoyama Gakuin University

- 学生FDスタッフ
 - 学生の視点から大学の授業や教育のあり方を考える学生団体
 - FD推進委員会への報告、全学FD委員会との交流、関東圏学生FD連絡会や全国学生FDサミットでの活動
 - 2017年度は、「Happyくらす作品コンクール」の募集、選考を行いました。

写真は学生FDサミット2017夏参加時のもの(2017/8/31、金沢星稟大学)

14

4. 今後のFD活動に向けて

近年の大学政策にみるFD

△「全学的な改革サイクルの確立のため、ワークショップを中心に「プログラムとしての学士課程教育」という基本的な認識の共有や教育方法に関する技術の向上に資する充実したFDを実施する。そのために、専門家(ファカルティ・ディベロッパー)の養成や確保、活用を図る。」

△「...単に授業内容・方法の改善のための研修に限らず、広く教育の改善、更には研究活動、社会貢献、管理運営に関わる教員団の職能開発の活動全般を指すものとしてFDの語を用いる場合もある。」

中央教育審議会「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)」2012年8月28日

専門性を高め、授業を越えて幅広く展開

15

△「各大学における教学システムの確立に不可欠なファカルティ・ディベロップメント(FD)の専門家、...の養成、確保、活用のために、拠点形成や大学間の連携の在り方等に関する調査研究を行う。なお、これと並行して、体系的なFDの受講と大学設置基準第14条(教授の資格)に定める「大学における教育を担当するにふさわしい教育上の能力」の関係の整理について検討を行う。」

中央教育審議会「第2期教育振興基本計画について(答申)」2013年4月25日

専門性と体系性、教員の教育力の検討

△補助事業等の要件として、「学長を中心とした事業実施体制の整備、全教職員へのFD・SDの徹底等を求めるなど、既に様々な先行的な取組が行われている。」

中央教育審議会大学分科会「大学のガバナンス改革の推進について(審議まとめ)」2014年2月12日

全学的な取組に

16

△「大学は、当該大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るために、その職員に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修(第25条の3に規定するものを除く。)の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。」
〔大学設置基準等の一部を改正する省令〕2016年3月31日公布
〔大学設置基準第42条の3〕2017年4月1日より施行

教員を含めてのSDの義務化

△「大学の事務職員の職務の現状を踏まえたものに見直すとともに、教職協働を推進し、大学総体として機能強化を図るべきことを、法令上明確に示していく必要があるのではないか。」
中央教育審議会大学分科会第133回記録「大学の事務職員等の在り方について(取組の方向性案)」2017年1月25日

「事務に従事」することの見直しと教員と職員との連携体制

17

本学の姿勢

青山学院大学 Aoyama Gakuin University

△「FDの実施自体を目的とするのではなく、FD活動を通じて「学生に修得させる能力を明確にして体系的な教育課程を提供するとともに、学修の成果を厳格に評価する」ことをめざしています。」(大学HP)

△「個々の教員による教育改善の蓄積は、潜在的にたいへん大きなものがあります。しかし、これらの豊富な教育資源は、目に見えないままであり、個人に固着しており継承することが難しいという現状があります。これらの豊富な資源を可視化するとともに、情報システムを活用することで、組織全体が共有する財産とすることが求められています。学生達の夢や希望を大切にして、教員と職員が協働しながら、より豊かな、質の高い教育の実現をめざしてゆきたいと思います。」
(青山学院大学全学FD委員会『2015年度青山学院大学FD活動報告書』)

※学内・外の研修会やセミナー等に関する案内、FD活動に関する情報等は、大学HPやポータルにて発信 (<http://www.aoyama.ac.jp/outline/effort/fd/>)

本年9月にワークショップ形式の第2回大学新任教職員研修会を予定

参考) これまでのFD活動

2009年度の主要な活動

- 授業アンケートの見直し
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の発足
- 次年度の新任教職員研修会プログラムの検討
- 各学部におけるFD活動の事例紹介
- 他大学との連携、交流
- 全国私立大学FD連携フォーラムへ加盟
- 関東圏FD連絡会への参加



19

2010年度の主要な活動

- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 全学的な学生意識調査の実施
- 授業シラバスの学外公開開始
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 「FD letter」の発刊
- 「実践的FDプログラム」上映会の開催
- 他大学との連携、交流



20

2011年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 全学的な学生意識調査の実施
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 授業改善アンケートのための教員アンケートの実施と分析
- 「FD letter」の発刊
- 「学生FD活動「しゃべり場」」の後援
- 他大学との連携、交流
- シラバスのWEB公開

21

2012年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 全学的な学生意識調査の実施と集計結果の外部公開
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- FDキャラクター FDEago の投入
- FD Tip の紹介
- FD Board の設置
- 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流

22

2013年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 全学的な学生意識調査の実施と集計結果の外部公開をテーマとしたFDフォーラムの開催
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- 学生FDスタッフと教職員の交流会実施
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流、包括協定締結
- FDハンドブックの制作

23

2014年度の主要な活動



- 新任教職員研修会の開催
- 「教育改善・教育プログラム支援」制度の実施
- 授業アンケートの集計結果の学外公開
- 「心に残る授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- 学生FDスタッフと教職員の交流会実施
- 学生FD活動「しゃべり場」の後援
- 他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- FDハンドブックの改訂
- 学外の講師による「FD講演会」開催
- 教員のための英語研修プログラム開催

24

2015年度の主要な活動



- ・新任教職員研修会の開催
- ・「教育改善支援制度」の実施(前年度より名称変更)
- ・授業アンケートの集計結果の学外公開(試験的に一部WEB入力を実施)
- ・「私を成長させてくれた授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- ・学生FD活動「しゃべり場」の後援
- ・他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- ・学外の講師による「FD講演会」開催
- ・教員のための英語研修プログラム開催
- ・科目ナンバリングの実施(2016年度入学生用)

25

2016年度の主要な活動



- ・新任教職員研修会の開催、FD・SD研修会の実施
- ・「教育改善支援制度」の実施
- ・授業アンケートの集計結果の学外公開
- ・授業アンケートのWEB入力を実施
- ・「私を成長させてくれた授業」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- ・学生FD活動の後援
- ・他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- ・学外の講師による「FD講演会」開催
- ・教員のための英語研修プログラム開催
- ・科目ナンバリングの実施(2017年度入学生用)
- ・FDハンドブックの改訂

26

2017年度の主要な活動



- ・新任教職員研修会の開催、FD・SD研修会の実施
- ・「教育改善支援制度」の実施
- ・授業アンケートの集計結果の学外公開
- ・授業アンケートのWEB入力を実施
- ・「青学に入学して良かったと感じること」をテーマとした「Happyくらす作品コンクール」の実施と受賞者との座談会開催
- ・他大学との連携、交流、セミナーへの参加
- ・教員のための英語研修プログラム開催
- ・科目ナンバリングの実施(2018年度入学生用)
- ・FDハンドブックの改訂

27

2018 年度 第 2 回大学新任教職員研修会 次第

日 時 9 月 11 日 (火) 13 : 30~15 : 30

場 所 大会議室 (青山キャンパス 総合研究所ビル 12 階)

司会進行

学務部教育支援課 竹田 治世

開会祈祷

大学宗教主任 シュート戸ポール 教授

開会挨拶

全学 FD 委員会委員長

副学長 田中 正郎 教授

研修会テーマ：【未来につなげる青山学院大学の教育・学生支援】

講師：杉原 真晃 先生

聖心女子大学 文学部教育学科 准教授

プログラム：

(1) 2040 年の高等教育

(2) ワークショップ：

2019 年・2020 年・2021 年につながる青山学院大学の教育・学生支援の提案

閉会挨拶

全学 FD 委員会副委員長

総合文化政策学部 中野 昌宏 教授

以上

本日の目標

- ・「未来につなげる青山学院大学の教育・学生支援」をテーマに、2019年・2020年・2021年につながる青山学院大学の教育・学生支援の提案を行います。
- ・それにより、現在の大学に求められていること、学生の現状と可能性、青山学院大学のもつリソースの現状と可能性等について考察を深め、今後（研修終了後）、みなさんが主体的・協働的に教育・学生支援を実践していく契機としたいと考えます。

本日の内容

- ・大学教育改革の最近の動向（別資料参照）を参照し、大学教育全体の動向を理解します。
別資料：『今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ【概要】』
- ・大学教育改革の動向をふまえ、青山学院大学における教育・学生支援の取組に関するアイデアを創出します。その際は、次のことにご配慮ください。
 - ・研修に参加する多様な学部・学科、部局に所属するメンバーの特長を活かし、学部・学科や部局を横断した、そして、教員と事務職員が連携した（教職協働）、取組（教養教育、学習支援、キャリア支援、課外活動支援、生活支援等）を考案する。
 - ・チームメンバーの意見を頭ごなしに否定することなく、傾聴し肯定しながら、メンバーそれぞれが活躍できる場をつくるよう配慮しながらアイデアを創出する。
 - ・“経験や知識が乏しく「わからない」ことは恥ずべきことではなく、責められることでもない”という前提で、聞き合い、助け合うことを大切にする。
 - ・学生の実態や青山学院大学のリソース等については、各自が青山学院大学で勤務し経験したこと・感じたこと・考えたことを大切にして、アイデアを練る。
 - ・上記の参考資料以外にも、各チームで自由に必要情報を収集することも可能。
- ・取組のアイデアを発表し合います。
 - ・模造紙にアイデアを書き、ポスター発表のような形式で行う。
 - ・教育・学生支援の取組に関するアイデアは、主に、次の項目から構成する。
 - (1) チーム名、チームメンバー、教育・学生支援（いずれか）の取組のタイトル
 - (2) 教育・学生支援（いずれか）の取組の具体的な内容
 - (3) 取組のアイデアに関する社会的背景、青山学院大学生の現状
 - (4) 学生に対する、取組の目標、期待される成果
- ※各4項目を模造紙1枚ずつ（合計4枚）に記載する。

今後の高等教育の将来像の提示に向けた中間まとめ【概要】

平成30年6月28日 中央教育審議会大学分科会将来構想部会

2040年の社会の姿

- SDGs(持続可能な開発のための目標) → 全ての人が必要な教育を受け、その能力を最大限に発揮でき、平和と豊かさを享受できる社会へ
- Society5.0・第4次産業革命 → 現時点では想像もつかない仕事に従事、幅広い知識をもとに、新しいアイデアや構想を生み出せる力が強みに
- 人生100年時代 → 生涯を通じて切れ目なく学び、すべての人へが活躍し締められる社会へ
- グローバル化 → 独自の社会の在り方や文化を踏まえた上で、多様性を受け入れる社会システムの構築へ
- 地方創生 → 知識集約型経済を活かした地方拠点の創出と、個人の価値観を尊重する生活環境を提供できる社会へ



2040年に向けた高等教育の課題と方向性

高等教育の新たな役割

- 「何を学び、身に付けることができるのか」を中心とした転換
修学者本位の高等教育への転換
- リカレント教育を通じ、「知識の共通基盤」に
個々人の強みや才能を最大限伸長する教育、
文系・理系の区別にどらわれない、新しいリテラシーにも
対応した教育・専門知や技能を組み合わせた教育の充実
- 国内外に必要な教育を提供
(日本の高等教育の国際展開)
- 「社会に開かれた教育課程」という理念の「初等中等教育
からの接続を意識した、高等教育における「学びの再構築
- リカレント教育による多様な年齢層の学生の増加に留意

18歳人口減への対応

高等教育に対する 社会からの関与・理解と支援の在り方

- できる限り多くの学生が学び、一旦社会に出た後も学びを継続するための魅力的な高等教育の提供
- 高等教育の質保証に関する国内外での認知向上
- 産業界の雇用の在り方、働き方改革と、高等教育が提供する学びのマッチング
- 教育投資効果を最大化する形での「公的支援」
(そのための国公私との役割分担の再確認)
人材面での社会への還元と社会からの支援の好循環

社会の変化に対応できる人材とその成長の場となる高等教育

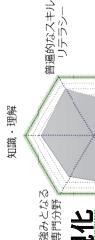
「個々人の強みを最大限に活かすことを可能とする教育」への転換

- 学修者が「自らが学んで身に付けたこと」を説明できる体系的なカリキュラムの編成

知識・理解

教育の質の保証と情報公表

- 教学マネジメントの確立とその前提としての学修成果の可視化
(教学マネジメント指針の策定、大学に対する学生の学修時間等の学修成績等の情報公表の義務付け、産業界等の採用プロセスにおける当該情報の積極的な活用)
- 入り口での設置認可と認証評価制度の改善
恒常的な情報公表の促進



- 国が描く将来像で描く将来像
・全都道府県の大学の配置状況に関する客観的なデータの作成(将来の入学者減の推計を含む)
・本格的な人口減少: 18歳人口 120万人(2017) → 103万人(2030) → 88万人(2040)
・2040年の大学進学者数推計は約51万人で、現在の約80%の規模に減少
- ・リカレント教育による多様な年齢層の学生の増加に留意

高等教育機関の教育研究体制

多様な価値観が集まるキャンパスから新たなる価値が生まれる

- 自前主義から脱却し、学部を越え、大学を通して多様な人的資源を活用
→ 18歳で入学する従来モデルから脱却し、社会人、留学生、障害のある学生など
多様な年齢層の多様なニーズを持つた学生への教育体制の整備

多様で質の高い教育プログラム

- ・学部等の組織の枠を越えた学部プログラム
・単位互換制度と「自ら開設」原則の考え方の整理
・教員は一つの学部に限り専任となる運用の緩和

大学の多様な強みの強化

- ・大学として中軸となる「強み」や「特色」を明確化
・地域連携プラットフォーム(仮称)
・地方公共団体



多様性を受け止めるガバナンス

- ・他大学、産業界、地方公共団体との恒常的な連携体制の構築
・国立大学における一法人複数大学制度の導入、私立大学における学部単位での事業譲渡の円滑化、国公私との校を越えた連携を可能とする「大学等連携推進法人(仮称)制度」の創設
・客観的・複眼的な外部からの意見反映と多様な人材の活用による経営力強化のための学外理事の複数名登用促進

多様な学生

- ・リカレント教育の充実
・留学生交流の推進
・学位等の国際通用性的の確保
・高等教育機関の国際展開

多様な教員

- ・実務家、若手、女性、外国人など多様なバックグラウンドの教員の採用と質保証

4. 授業改善のための学生アンケート

本学では、2003 年度より、授業内容・方法に関する学生へのアンケート調査「授業改善のための学生アンケート」（以下、本アンケートと略）を全学的に実施している。

2016 年度より、本アンケートの実施方法を、従来の「マークシート調査方式」から「WEB アンケート調査方式」に変更した。

○ アンケート概要

【実施目的】

「大学が、学生により良い授業を提供し、授業改善を図るための手段」として、学生によるアンケートを実施する。

【実施概要】

本アンケートは、全学部・研究科（専門職大学院を除く）において、共通の設問・回答項目を用いて実施している。

前期は前期開講科目、後期は通年科目及び後期開講科目の内、受講者数が 5 名以上の科目を本アンケートの対象としている。ただし、演習科目及び実験・実習科目、集中科目を除く他、研究科の開講科目は各研究科が指定した科目としている。

本アンケートは、「WEB アンケート調査方式」にて実施している。ただし、授業担当者が特に希望する場合は、マークシート調査方式に替えることができる。

学生は所定の期間中の任意の機会にアンケートへの回答を行う。アンケートは無記名の回答であり、全学共通の 17 問の選択式回答及び 1 問の自由記述式回答と、学部・学科及び授業担当者が独自に作成し追加することが可能な 13 問の選択式回答及び 1 問の自由記述式回答から成る。

本アンケートの結果は、当該科目の成績評価への影響がない時期に各授業担当者へ報告される他、一定の集計を経て全教職員及び学生に開示される。その際、学部・研究科によっては科目単位での結果開示を行っている。

【その他】

本アンケートの集計結果の一部は、本学 WEB サイト(<http://www.aoyama.ac.jp/>)に掲載している。

授業改善のための学生アンケート Student Survey to Improve Classes
青山学院大学 Aoyama Gakuin University

このアンケート調査は、青山学院大学が授業改善を目的とし、科目担当者が授業をより充実させるために実施するものです。結果の担当教員への返却は、成績提出後に行われます。したがって、皆さんの成績評価には一切影響ありません。また、アンケートの参加は皆さんの自由意思によるものです。

The purpose of this survey is to help instructors improve the quality of their classes. The instructor will not see the results of the survey until after grade reports are handed in, and therefore responses to the survey cannot influence your grades. Participation in the survey is voluntary.

A. 授業への取り組みに関する質問 Questions about your attitude toward this course:

1. あなたがこの授業を履修した理由は何ですか。（複数回答可）

What is the reason for taking this course? (multiple responses allowed)

- | | |
|------------------|---|
| 5) 授業内容に興味があったから | I was interested in the content |
| 4) 教員に魅力があったから | because of the instructor teaching the course |
| 3) 空き時間があったから | I had this period open |
| 2) 単位がとりやすいから | it looked easy |
| 1) 必須科目だから | it was a required course |

2. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか。

How often did you attend classes?

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| 5) ほとんど出席した | almost every class |
| 4) 3分の2程度出席した | about two thirds of the classes |
| 3) 半分程度出席した | about half the classes |
| 2) 3分の1程度出席した | about one third of the classes |
| 1) ほとんど出席しなかった | I rarely attended |

3. あなたは授業内容を理解するため積極的に取り組んだと思いますか。

I made an effort to understand the subject matter.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

4. 1回の授業につき、あなたは予習・復習を平均してどのくらいしましたか。

On average, how much time did you spend on preparation and review?

- | | |
|------------|--|
| 5) 3時間以上 | more than three hours |
| 4) 2時間 | about two hours |
| 3) 1時間 | about one hour |
| 2) 30分以下 | less than 30 minutes |
| 1) 全くしていない | I never prepared for class or reviewed after class |

B. 教員(授業内容・教授方法)に関する質問

Questions about course content and class instruction:

5. この授業は「講義内容」(シラバス)を基本にして授業が行われましたか。

The instructor lectured according to his/her course syllabus.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

6. この授業の難易度はどうでしたか。

How difficult was this course?

- | | |
|-----------|----------------------|
| 5) とても難しい | very difficult |
| 4) やや難しい | relatively difficult |
| 3) 適切 | appropriate |
| 2) やや易しい | relatively easy |
| 1) とても易しい | very easy |

7. この授業の進行速度は適切でしたか。

What is your impression of the pace of instruction?

- | | |
|-----------|---------------|
| 5) 速すぎた | too fast |
| 4) やや速かった | a little fast |
| 3) 適切 | appropriate |
| 2) やや遅かった | a little slow |
| 1) 遅すぎた | too slow |

8. 教員の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。

The instruction given during this class was easy to understand.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

9. 教科書や配布資料は授業内容を理解するうえで効果的でしたか。

The textbooks or handouts were effective in understanding the subject matter.

- | | |
|---------------------------|--|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |
| 0) この授業では教科書・配布資料を使用しなかった | The instructor did not use textbooks or handouts |

10. 黒板やプロジェクター等の使い方は効果的でしたか。

The instructor used teaching aids (blackboard, overhead projector, etc.) effectively.

- | | |
|------------------------------|--|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |
| 0) この授業では黒板・プロジェクター等を使用しなかった | The instructor did not use any teaching aids |

11. この授業に対する担当教員の熱意が感じられましたか。

I felt the instructor's enthusiasm toward this course.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

12. 授業時間内外における質問への対応は適切でしたか。

The instructor responded to my questions appropriately during and outside class.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

13. 補佐教員(助手、TA)のサポートは適切でしたか。

I thought the support of assistants (lecture assistants or teaching assistants) was appropriate.

- | | |
|---------------------|--|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |
| 0) この授業には補佐教員がいなかった | There were no assistants in this class |

C. 授業の成果に関する質問

Questions about the outcome of this course:

14. あなたは、この授業の開講時に示された到達目標を十分に達成したと思いますか。

I think that I have achieved the course objectives.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

15. この授業の内容は興味深いものでしたか。

I found this course interesting.

- | | |
|--------------|------------------------------|
| 5) 強くそう思う | I strongly agree |
| 4) そう思う | I agree |
| 3) どちらともいえない | I neither agree nor disagree |
| 2) そう思わない | I disagree |
| 1) 全くそう思わない | I strongly disagree |

16. この授業の総合評価を5段階で評価してください。

How would you evaluate the class overall?

- | | |
|--------------|-----------|
| 5) とてもよい | very good |
| 4) よい | good |
| 3) どちらともいえない | average |
| 2) 悪い | bad |
| 1) とても悪い | very bad |

17. この授業を履修して、自分のためになったことは何ですか。(複数回答可)

What did you gain from this class? (multiple responses allowed)

- | | |
|---------------------|---|
| 5) 新しい知識・技能が身に付いた | I gained new knowledge and skills |
| 4) 新しいものの見方が身に付いた | I gained a new perspective |
| 3) 関連分野をさらに学びたくなった | My desire to study related fields grew stronger |
| 2) 問題発見・解決能力が付いた | I acquired the ability to discover problems and to solve them |
| 1) 人間形成に役立った | The class helped build my character |
| 0) コミュニケーション能力が向上した | My communication skills improved |

自由記述回答 Written comments:

18. この授業の良かった点、改善すべき点等について書いてください。

What aspects of this class do you think were good / should be improved?

D. 担当教員による個別質問 (希望教員のみ)

Additional questions from the instructor:

19~31. 選択回答

32. 自由記述回答 Question from the instructor asking for written comment

2018年度 「授業改善のための学生アンケート」実施状況

学部・研究科等	前期								後期								
	学部				研究科				学部				研究科				
	対象科目数(A)	回答科目数(B)	実施率(B/A)	平均回答率	対象科目数(A)	回答科目数(B)	実施率(B/A)	平均回答率	対象科目数(A)	回答科目数(B)	実施率(B/A)	平均回答率	対象科目数(A)	回答科目数(B)	実施率(B/A)	平均回答率	
青山キャンパス	青山スタンダード (専任)	112	106	94.6%	35.0%	-	-	-	-	97	90	92.8%	27.8%	-	-	-	
	(兼任)	371	342	92.2%	38.6%	-	-	-	-	343	312	91.0%	35.7%	-	-	-	
	文学 (専任)	146	132	90.4%	37.8%	5	1	20.0%	33.3%	141	121	85.8%	32.3%	3	1	33.3% 80.0%	
	(兼任)	348	313	89.9%	39.0%	1	0	0.0%	0.0%	346	305	88.2%	35.9%	1	0	0.0% 0.0%	
	教育人間科学 (専任)	26	25	96.2%	24.8%	3	3	100.0%	53.3%	36	30	83.3%	26.9%	4	4	100.0% 55.0%	
	(研究科は心理のみ) (兼任)	20	18	90.0%	25.2%	1	1	100.0%	20.0%	80	75	93.8%	37.4%	1	1	100.0% 33.3%	
	経済学 (専任)	88	79	89.8%	18.4%	2	2	100.0%	33.7%	80	68	85.0%	13.3%	1	1	100.0% 71.4%	
	(兼任)	69	61	88.4%	35.4%	0	0	0.0%	-	113	87	77.0%	26.5%	1	1	100.0% 28.6%	
	法学 (専任)	61	61	100.0%	18.2%	0	0	0.0%	-	59	52	88.1%	18.1%	1	1	100.0% 80.0%	
	(兼任)	23	21	91.3%	10.4%	0	0	0.0%	-	106	87	82.1%	27.2%	0	0	0.0% 0.0%	
	経営学 (専任)	95	84	88.4%	28.2%	9	9	100.0%	73.0%	88	69	78.4%	20.1%	6	6	100.0% 54.2%	
	(兼任)	119	103	86.6%	42.5%	7	7	100.0%	91.4%	122	101	82.8%	35.8%	4	4	100.0% 78.3%	
	国際政治経済学 (専任)	95	80	84.2%	17.6%	10	8	80.0%	29.7%	82	53	64.6%	17.0%	7	6	85.7% 37.8%	
	(兼任)	154	122	79.2%	31.7%	7	7	100.0%	39.7%	142	94	66.2%	33.0%	4	4	100.0% 54.9%	
相模原キャンパス	総合文化政策学 (専任)	38	35	92.1%	33.2%	3	3	100.0%	51.6%	36	32	88.9%	20.3%	3	3	100.0% 53.3%	
	(兼任)	37	33	89.2%	22.1%	0	0	0.0%	-	38	33	86.8%	25.4%	0	0	0.0% 0.0%	
	社会情報学 (専任)	-	-	-	-	0	0	0.0%	-	-	-	-	1	1	100.0% 20.0%		
	(兼任)	-	-	-	-	1	0	0.0%	0.0%	-	-	-	-	1	1	100.0% 20.0%	
	教職課程科目 (専任)	0	0	0.0%	-	-	-	-	-	0	0	0.0%	-	-	-	-	
	(兼任)	0	0	0.0%	-	-	-	-	-	0	0	0.0%	-	-	-	-	
	計 (専任)	661	602	91.1%	28.0%	32	26	81.3%	50.4%	619	515	83.2%	23.3%	25	22	88.0% 51.5%	
	(兼任)	1,141	1,013	88.8%	36.8%	17	15	88.2%	62.5%	1,290	1,094	84.8%	33.9%	11	10	90.9% 55.9%	
	青山スタンダード (専任)	27	25	92.6%	30.6%	-	-	-	-	26	23	88.5%	32.3%	-	-	-	
	(兼任)	109	106	97.2%	44.7%	-	-	-	-	103	100	97.1%	40.8%	-	-	-	
相模原キャンパス	理工学 (専任)	151	145	96.0%	27.2%	30	19	63.3%	27.2%	162	145	89.5%	24.2%	29	11	37.9% 21.5%	
	(兼任)	101	94	93.1%	50.4%	6	6	100.0%	39.6%	89	82	92.1%	41.1%	10	7	70.0% 53.2%	
	社会情報学 (専任)	85	81	95.3%	35.6%	3	1	33.3%	60.0%	77	74	96.1%	27.9%	0	0	0.0% -	
	(兼任)	26	25	96.2%	29.9%	0	0	0.0%	-	22	18	81.8%	19.6%	0	0	0.0% -	
	地球社会共生学 (専任)	55	41	74.5%	35.6%	-	-	-	-	45	35	77.8%	45.6%	-	-	-	
	(兼任)	28	25	89.3%	37.7%	-	-	-	-	31	23	74.2%	30.1%	-	-	-	
	教職課程科目 (専任)	0	0	0.0%	-	-	-	-	-	0	0	0.0%	-	-	-	-	
計	(専任)	318	292	91.8%	31.0%	33	20	60.6%	28.8%	310	277	89.4%	28.5%	29	11	37.9% 21.5%	
	(兼任)	264	250	94.7%	44.7%	6	6	100.0%	39.6%	245	223	91.0%	38.1%	10	7	70.0% 53.2%	
合計		2,384	2,157	90.5%	34.4%	88	67	76.1%	45.7%	2,464	2,109	85.6%	31.1%	75	50	66.7% 46.3%	
(WEBアンケート)		(専任)	934	853	91.3%	26.3%	64	46	71.9%	41.0%	881	748	84.9%	22.0%	55	34	61.8% 41.8%
		(兼任)	1,376	1,235	89.8%	37.5%	23	21	91.3%	56.0%	1,516	1,299	85.7%	34.0%	22	18	81.8% 54.8%
(マークシート)		(専任)	45	41	91.1%	83.5%	1	0	0.0%	0.0%	48	44	91.7%	78.0%	0	0	0.0% -
		(兼任)	29	28	96.6%	76.6%	0	0	0.0%	-	19	18	94.7%	76.3%	0	0	0.0% -

- * 内容の有無に関わらず、受講生が提出した回答を有効回答とした。また、回答が保留(一時保存)のものは対象外とした。
- * 有効回答が1件以上ある科目を、「回答科目数」及び「平均回答率」の算出対象とした。
- * 各科目の受講者数に対する有効回答数の割合(回答率)の平均を「平均回答率」として算出した。
- * 「実施率」及び「平均回答率」は、小数点第二位以下を四捨五入した。

5. 学生 FD スタッフの活動

学生 FD スタッフ活動とは、学生が大学における授業改善のために行う諸活動を指す。本学では2011年度よりFD推進委員会の直下組織として学生 FD スタッフの位置づけが確立され、学生の視点による教育の質の改善に取り組んでいる。本学の授業を「学生が本当に求める授業」にするため、さまざまな活動や企画を通して、学生視点で授業や教育のあり方を追求している。

具体的な活動としては、学内において青山学院大学 FD 作品コンクールを開催している。

青山学院大学 FD 作品コンクールは、教育の質を向上させるために改善すべき点を文章やメッセージでの呼びかけだけで教員に認識させ意識改革をすることは難しく、その効果には限界があるため、本学の FD 活動を推進するマスコットキャラクターとして「FDEago」（エフディーゴ）を作成し、2012・2013年度の2年間に期間を限定して実施した「FDEago プロジェクト」の企画のひとつとして立ち上がり、2014年度以降も実施が続き、2017年度からは学生 FD スタッフ主催で継続している。

学外においても、全国規模で開催される学生 FD サミットや近隣他大学の FD スタッフとの交流会にも参加し、他大学での学生 FD スタッフ活動や教育改善への取組から学びを得て、その知識と経験を本学の FD 活動に活かしている。

○ 2018年度学生FDスタッフ活動一覧

【学内におけるFD活動】

名称	内容
青山学院大学FD作品コンクール(旧:Happyぐらす作品コンクール)	A4創作物部門「将来の夢と青学での学び」/川柳部門「青学」をテーマに作品を募集し、36作品の応募があった。学生FDスタッフによる選考の結果、A4創作物部門では、優秀賞1作品、佳作2作品、川柳部門では、16作品が入選した。

【学外イベントへの参加】

名称	開催日	場所	対象	テーマ	備考
学生FDサミット2018夏	2018年8月28日(火)・29日(水)	京都光華女子大学	学生、教職員	2018学生FDサミットin 京都光華 壊して作れ！！～やる気と無気力の壁	学生スタッフ2名参加
学生FDサミット2019春	2019年3月21日(木)、22日(金)	島根県立大学	学生、教職員	学生FD サミット2019 春～“縁結び” 学生FD 次のステップへ～	学生スタッフ2名参加

青山学院大学 FD 作品コンクール 2018

募集要項

青山学院大学
FD 推進委員会
学生 FD スタッフ

学生のみなさんが青山学院大学（青学）でたくさんのこと学び、学生たちの成長を見て教職員も喜びを感じられるような、みんながハッピーになれる学びの場を作っていくたいという思いは、青学に集う全ての人が願っていることだと思います。そんな思いから、青学での学びの思い出を学生のみなさんに作品の形で表現していただき、他の学生たちや教職員と広くその思いを共有したいと考え、この企画を実施します。是非、みなさんの声を聞かせてください。

1. 応募資格

青山学院大学の学部生・大学院生

2. 作品ジャンル

I .A4 創作物部門

以下のテーマに沿った内容で創作してください。

「将来の夢と青学での学び」

青学での学びは、日々の授業や課外活動だけでなく、夏期・春期休暇期間中の短期研修や留学、新入生キャンプやインターンシップ等、様々な場で行われます。そのたくさんの学びの中で将来の夢を発見したり、実現に向けて頑張っている仲間がいたり…ご自身の「将来の夢と青学での学び」に関する様々な経験を作品にして応募してください。

作品の形態は次の 2 つのいずれかから選んでください。

散文：エッセイなど、文章で表現する作品。A4 サイズ用紙 1 枚程度。

漫画：漫画（四コマ漫画、ストーリー漫画など）（最大 A4 サイズ用紙 10 枚相当。ただし、提出原稿の用紙サイズは自由）。

II.川柳部門

以下のテーマに沿った内容で川柳を作成してください。

「青学」

※ 応募作品は未発表のものに限らせていただきます。また、応募作品は他者の権利（著作権、肖像権等）を侵害しないように十分な配慮をしてください。

4. 応募方法

青山学院大学 FD 推進委員会宛てにメールにて作品をお送りください。

その際、メール本文に「学生番号」「所属学部・学科」「学年」「氏名」を必ず記載してください。

紙媒体での提出を希望する場合は、以下の問い合わせ先に提出してください（窓口時間のみ）。

※ 応募作品数に制限はありません。一人で複数の題材による応募も可能です。

5. 入選作品

- ① 入選作品の著作権は青山学院に帰属します。
- ② 9月に青山学院大学 HP 上で入選作品発表を行う予定です。入選者の方々には学生ポータルを通じて入選のご連絡および副賞のお渡し方法のご連絡をいたします。
- ③ 入選作品及び副賞お渡しの様子等の写真は、青山学院大学ウェブサイト(<http://www.aoyama.ac.jp/>)への掲載等、青山学院の広報活動等において活用させていただきます。

6. 提出期限

2018年7月24日（火）必着

7. 選考

選考は青山学院大学学生 FD スタッフによって行われます。テーマに沿った「青学での学びのよい思い出を伝える、優れた作品になっているか」を主な選考基準とします。

I.A4 創作物部門

応募作品の中から、ジャンルの区別なく優れたものを選考し、入選作品として下記の賞を授与します。

優秀賞	副賞：1万円分の図書カード
佳作	副賞：5千円分の図書カード

II.川柳部門

応募作品の中から優れたものを10~20作品選考し、以下の賞を授与します。

エフディーゴ賞	副賞：図書カードまたは記念品
---------	----------------

選考結果は2018年9月26日(水)頃に青山学院大学ウェブサイト(<http://www.aoyama.ac.jp/>)で発表するとともに、入選者個人にメールにて通知します。

8. お問い合わせ

- 青山キャンパス 学務部教育支援課
電話 03-3409-4165
- 相模原キャンパス 事務部学務課 教育支援担当
電話 042-759-6003

以上

2018年度青山学院大学FD作品コンクール 入賞作品一覧

○A4 創作物部門

優秀賞

川野 彩果さん

私は昔から、「伝えること」が苦手だった。

特に人前で話すとなると、もうだめだ。膝は勝手に震えるし、声は喉で引っかかる。原稿の文字は滲んで見える。そんな情けない自分が大嫌いだった。

そんな私が青学に入って一番心配していたのが、やはり「発表」だった。

大学に入ると発表の機会は増える。周りからそう聞かされていた。

びくびくする自分をなだめながら、私はある授業を履修した。その授業の評価対象の中には「発表」がある…しかし、その授業内容に、私はどうしようもなく心惹かれたのである。

私の期待と不安が織り交ざった気持ちをよそに、その授業は始まった。講義の時間を経て、学生の発表の日がやってくる。その日は先輩の発表日だった。

私は思わず目を瞠った。発表者である彼女は教卓についた瞬間、瞳がいきいきと輝き出したのである。身を乗り出し、パワーポイントの前で全身を使って説明箇所を指し示しながら、学生たちを見て微笑みながら話す彼女。原稿なんて持っていないかった。彼女の口からは自然な言葉がすらすらと流れ出て、それが私の胸に沁みていく。他の学生たちも、彼女の発表に集中しているのが分かる。そして何より、彼女がどれほど学ぶことが楽しくて、どれほど研究することを愛しているかが伝わってきた。パワーポイントの作りから、レジュメの構成に至るまで、そこそこに彼女のこだわりと愛が満ち溢れていた。万雷の拍手で、その発表は幕を閉じた。

自分の大好きな世界を、みんなの前で堂々と発表できる、そのなんと輝いて見えることか。

「発表」の魅力に気が付いた私は、それから「人に伝えること」についてよく考えるようになった。先生は普段、どうやって説明していたか？先輩はどうやって発表していたか？伝わる発表と伝わらない発表の差は何か？私に足りないものは何なのか？

私は、極力避けていた「発表」のある授業も積極的に取ることにした。苦手意識よりも興味と憧れが勝った。とにかく場慣れして経験を積もうと思った。

そして、確かに自分の中にもあることに気づいたのだ。私の学びたい世界、その楽しさや面白さを誰かに伝えたい、そんな世界が。

大学生前半、私はそれはもうめちゃめちゃ頑張った。へたくそな発表を何度も繰り返し、そのたびに反省と改善を繰り返した。聞いてくれた先生方や学生たちは、フィードバックとして改善点を教えてくれた。へたくそなりに頑張ったところを褒めてくれたりもした。

そして、私はゼミに入り、本格的に自分の研究をする頃になると、いくらか自信がつくようになっていた。人前に立っても、もう震えることはなくなった。いつの間にか苦手意識は薄れ、むしろ発表が楽しみとすら思えるようになっていた。

伝えることの難しさと楽しさを知った私は、次第に「発信する人」になりたいと思うようになっていった。楽しい世界をみんなに共有して、その人の心にもう一つ引き出しを増やす、そんな人に。私は、私の大好きな世界——芸術分野を専門とするライターを目指すことにした。卒業後は、素敵な世界を発信するライターになろう。そう決意したのがこの夏だ。

青学の授業が、私の未来を変えた。その素晴らしい出会いに、心から感謝を。

(学生 FD スタッフによる講評)

先輩の堂々とした発表を初めて見たときの感動、その瞬間からの発表という概念の変化が生き生きと描かれています。それまで苦手意識を持っていた「伝えること」を将来の夢にしたことは、大学での学びが将来の夢を構築するとても重要な意味を持つものなのだと改めて考えました。

佳作

池原 優斗さん

私は大学に入学して初めてキリスト教と出会った。入学式の礼拝が初めて参加した礼拝だった。そこで聞いた聖書の言葉になんとなく魅力を感じた。そのとき私は上京したばかりで慣れない土地での不安から、何らかの答え示すものを探していたからかもしれない。しかし、そうではなく、本質的なところで強く私に訴えかけたという点もあったと思っている。

大学から配られたパンフレットを読んで聖書に親しむ会やキリスト教文化に親しむ会があることを知った。これらの会はまとめて聖書研究会と呼ばれている。私はせっかくキリスト教の精神を重んじる大学に来たのだからキリスト教について学ぼうと思って聖書研究会に顔を出した。入学式での経験から、もっとキリスト教を学びたいという思いもそれを後押ししたのだと思う。聖書研究会を通して私は他のノンクリスチヤンの学生よりもキリスト教の教えや文化について理解することができた。

2018 年の春から青山学院大学シンギュラリティ研究所 (AGUSI) Media Lab に学生のメンバーとして参加している。AGUSI Media Lab ではシンギュラリティやそれをもたらす AI について文系の視点から研究している。2018 年度前期は様々な分野で活躍する講師を招いて連続基調講演を開催した。その四回目の講演での主張が印象に残っている。情報技術の分野で日本が欧米に遅れたのは欧米の文化を理解できていなかつたためであり、欧米の文化を理解できていないままでは、日本は AI の時代においても遅れてしまう、というものだった。今の日本では AI は技術的な側面が注目され、その文化的背景についての議論はあまりなされていないのが現状ではないだろうか。私は前期の活動の中で、特にそのことについて危機感を持った。

なぜ、AI の話をするのかというと、シンギュラリティという発想はキリスト教の考え方と深いつながりがあるように感じているからだ。シンギュラリティ思想は、人間を超える知の存在があり得るのではないか、という考えが必要となる。しかし、多くの日本人にとって、そういうものをすんなりと受け入れることは難しいのではないかと思う。一方で、キリスト教の影響が強い欧米では、世俗化したとはいえないや、世俗化してキリスト教の考え方方が無意識下に沈んだからこそ、この構図は馴染むのではないだろうか。

キリスト教圏からやってきたシンギュラリティという言説は、キリスト教に対する理解なしには分かり得ない。キリスト教に触れてこなかった私がこのような問題に気がつくことができたのは、聖書研究会

と AGUSI Media Lab の両方で学んでいたためだ。そして、キリスト教精神に基づいた教育と真理の追求を掲げる青山学院大学だからこそ、二つの素晴らしい学びの場に出会うことができたのだと思う。大学で様々な形態の知に触れる中で、私の将来の夢も定まっていった。それは、人類を新しいパラダイムへと進めるような研究をして、それを発表することである。それは本を出版するという形かもしれないし、電子的に記すという形かもしれない。特にメディアや情報技術について興味があるので、おそらくその分野での研究になるだろう。ただ、ここでは将来に就きたい具体的な職業については書かないでおく。AI の時代において社会の変化が指数関数的に速まっていく中、数十年後にどのような職業で社会が構成されているのかわからないからだ。だからこそ、この大学での学びを通して、聖書のような長い歴史を持つものや、AI のような新しく登場したものについて考え方、変化の中でも価値を持続する本質的な力を、さらに身につけていかなければならないと思っている。

(学生 FD スタッフによる講評)

シンギュラリティとキリスト教の関係の考察がおもしろいと思いました。また、未来を見据えてあえて将来就きたい職業を述べないというのもおもしろいと思いました。

佳作 「私の夢」

皆錢 文哉さん

私には夢があります。それは、映画監督になって、自分のつくった映画で一人でも多くの人に感動を与えることです。

私はメディアに興味があり、青山学院大学に入りました。青山学院は立地に強く、最先端の情報が集められると思ったからです。

大学では映画をつくる部活に入り、多くの映画を撮りました。自分の中にある物語を、映画というメディアを介して表現したかったです。

マイクやカメラは部活の機材を借りて、役者は部活の友達を起用して、みんなで創作に励みました。

映像制作の過程で、青山学院には色々な人がいることに気付きました。機械が好きで、大学生で既にカメラやマイクの使い方を熟知している技術人がいれば、高校時代に演劇部で、演技が上手い役者がいました。ナレーターや脚本の学校にダブルスクールで通っている学生や、小さいころに欧米に住んでいて、ネイティブレベルに英語が話せる学生もいました。青山学院には色々な特技を持つ学生が集まっているのだと知りました。

学生だけではありませんでした。青山学院には映画を学ぶ授業があり、教授が映画の作り方から、業界の仕組み、プロデュースのノウハウまで教えてくださいました。もっと深く知りたければ、映像関係のゼミやラボに入り、焦点を絞って専門知識を学べます。学生の枠を超えて、プロの方々をお呼びすることができます。熱意と誠意があれば、教授の紹介で映画の現場に行って、プロのグループの一員として制作に参加できます。現場の雰囲気を知り、業界が欲しがっている人材、現状を現職の方々の生の声で知る機会を得られるのです。

青山学院はやりたいこと、学びたいことを存分に学び、活かせる場所でした。それは映画に限ったことはありません。青山学院には、広告を学ぶ人がいれば、プログラミングスキルを研鑽する学生もいます。経済学に詳しい人間がいれば、建築に興味を持つ人もいます。ダイバーシティな環境の中で、日々学生た

ちの化学反応が繰り広げられています。何か面白いことをしようと企画を立てて、その企画に熱意と魅力があれば、周囲は積極的に協力してくれます。学生が真剣に活動していれば、教授はアドバイスをくれます。困ったことがあれば、相談に乗って、バックアップしてくれます。

映画は一人では作れません。様々な特技を持った人が集まり、それぞれの特化した能力をチームの中で最大限に活かし合って、物語を完成させます。これは映画に限らず、人生を通じて大切なことだと思います。

私には夢があります。それは、映画監督になって、仲間とともにつくった物語を多くの人々に観てもらうことです。私たちが本気でつくった映画を、誰かが面白いと思ってくれれば、それはとても嬉しいことなのです。

(学生 FD スタッフによる講評)

映画監督になるという夢に向かって、部活や授業など様々な手段を活用して学んでいることが分かりました。その他にも、映像関係のゼミやラボでの学び、プロの方との交流など、青山学院における学びの多様性が表れている良い作品だと思いました。

○川柳部門（エフェティーゴ賞）

五十嵐 直輝さん 靴汚な 銀杏何なん これ何なん
ヤマの神 テストでヤマ張り 大逆転
茜さす イチョウ並木の 帰り道

上田 泰成さん 海の日も 渋谷区渋谷へ 山登り
246 渡る学生 十二使徒
炎天下 ネクタイ締める メソジスト

小野 僚子さん 先輩の 特技は物真似 「ジョン・ウェスレー」
振り向けば 黄色の絨毯 青き日々

有園 僚真さん 青よりも 緑が出でし 我が校色
駅伝部? 決まって聞かれる この質問
就活で 母校の大きさ 再確認
4限終え 帰路に向かうは 渋谷5時
10時半 体に流れる あのメロディー¹
我が校が 照らし出すのは 世の光
気が付けば 年々積もる 母校愛
渋谷じゃない！ 訂正するのは 100回目

学生 FD サミット 2018 夏 活動報告書

提出日：2018年9月14日

『2018 学生 FD サミット in 京都光華 壊して作れ！！～やる気と無気力の壁』

開催日時：2018年8月28日(火)・29日(水)

会場：京都光華女子大学

主催：京都光華女子大学 学生 FD スタッフ

参加者：全国の大学にて学生 FD 活動に取り組む学生・教員・職員総勢 311名

報告者：理工学部 機械創造工学科 2年 馬場裕一

プログラム

1日目 8月28日(火) 12:00～19:00

12:00	受付
13:00	オープニング
13:45	分科会
15:15	しゃべり場
17:30	情報交換会
19:00	終了

2日目 8月29日(水) 9:00～15:30

9:00	受付
10:00	オープニング
10:30	しゃべり場
13:40	成果発表
15:00	クロージング

15:30

終了

分科会 B-①

登壇者：北翔大学

学生間や学生と教職員の間にある壁は、パーソナルスペースなど、必要な距離感でもあるので、壁は壊すのではなく、壁にドアやふすまをつけるような試みが大事であるとの発表がありました。

分科会 B-②

登壇者：中央学院大学短期大学部

定期試験後にテスト結果を返してもらったり、しゃべり場に教職員の方にも参加してもらえるように、研究室に直接招待状を持っていくといった活動を行っているそうです。

情報交換会

学生 FD の父こと木野茂先生に今後の活動のアドバイスをうかがったところ、東京や神奈川には FD 活動の盛んな大学がたくさんあるので、そちらと連携をとって活動を行うとよいのではないかと教えてもらいました。

しゃべり場

「壊して作れ！！～やる気と無気力の壁」をテーマに、学生と学生、学生と教員、学生と職員にある壁について話し合い、それを取り除くにはどのような方法があるかを学生・教職員が入り混じった各グループ 6 名ほどで話し合いました。

結果として、以下のようなポスターにまとめ上げました。

特に学生からのアイデアも取り入れ、学生ポータルの改善と、学科での懇親会のような学生や教職員の交流の機会があるといいのではないかと思いました。

尚、次回の学生 FD サミットは 3/21, 22 に島根県立大学出雲キャンパスで行う予定だそうです。

学生×学生

やる気

- やる気の差
- 雰囲気の悪化

新入生向け OBからの啓発

意識の底上げ
「中間層」の向上

勉強会及
白習室の提供

コミュニケーション

- 交流の機会がない

コミュニケーションイベント
を企画し、ネットワークの構築

ラングムでチームを
決めて体育祭など
で協力する事をする

他学科の専門的
授業を受ける

学生×教員

情報不足

- 連絡手段の有無
- オフィスアワー
- 研究室の情報

本音で
オフィス
食事会

学生的窓口制度。
教授→教授の学生→学生
のラインをつくる。

教員紹介掲示・HP
(連絡先・年次・学年
+趣味・特徴など)

研究室を1ヶ所
に集める。
(他学科とも交流可)

コミュニケーション

- 話しかけづらい
- 教員の部屋に
入りづらい
- 授業への意欲

授業支援アプリなど
コミュニケーションツールを
作成・利用する。

授業を少人数(クラス)にて
教員や学生一人ひとりと
関われるようにする。

高校生の時から
大学教授と
交流する機会

教員の部屋に
ガラス窓をつくる。
(不透明性の緩和)

学生×職員

情報不足

- 職員の担当
業務の情報
をのせる。

&
「こういう時は
ここへみたまない
Q&Aとのせる。」

学内ネットの
改良

事務室に
入りやすい
環境づくり

◦ 学生から全体へ
情報(企画の
お知らせ等)
発信ができるように。

コミュニケーション

日安

メール(学内ネット)の
荷物受け箱

職員も
イベントに
参加する

本音で
ハングル酒

学生 FD サミット 2019 春 活動報告書

提出日：2019 年 4 月 6 日

『学生 FD サミット 2019 春 ~“縁結び” 学生 FD 次のステップへ～』

開催日時：2019 年 3 月 21(木)～22 日(金)

会場：島根県立大学・出雲キャンパス

主催：島根県立大学・学生 FD～縁～(えにし)

参加者：全国の大学にて学生 FD 活動に取り組む学生・教員・職員

報告者：教育人間科学部 心理学科 3 年 堤真心

○プログラム

1 日目 3 月 21 日(木)

2 日目 3 月 22 日(金)

12:30～	受付	8:30～	受付
13:30～14:50	オープニング	9:00～12:00	しゃべり場
14:50～15:00	二日目のガイダンス	12:00～14:00	昼食
15:30	集合写真	14:00	集合写真
16:00～17:30	ポスターセッション	14:30～15:40	出雲神セブンを決める
18:00～19:30	情報交換会	15:40～16:00	クロージング

○ポスターセッション

20 校のポスターが展示されました。ポスターには主に活動成果や今後の取り組みなどの情報が記載しており、質問や助言をし合い活動の向上について考える機会となりました。青山学院大学のポスターブースでは、活動に対するアドバイスを募集し、助言を頂きました。(下記記載)

○情報交換会

立食式で開催された情報交換会では、他大学の方たちと大学生活や授業について話し交流を深めました。他大学では「ベストティーチャー賞」や「教員へのインタビュー」等、様々な取り組みがされていることを知り、青山学院大学でも実践したいと感じました。

●頂いた助言

一人ひとりの役割を明確にする・共通の目標を持つ・思いついたらまず提案してみる・スタッフ同士でコミュニケーションを良く取り雰囲気を良くする・学生スタッフが主体となる・改善を義務化せず楽しむ



6. 教育改善支援制度

本制度は、2009年度より「教育改善・教育プログラム支援制度」という名称で開始し、2015年度より名称を「教育改善支援制度」に変更し、FDならびにSD推進の一環として始まった制度である。

この制度は、学内公募により、本学で行われる教育の質的向上をめざす取組みや新たな教育プログラムの開発を支援することにより、教育の改善・改革を進めることを目的としている。教員からの学部・学科や研究科単位での申請や、職員からの所属部・課単位での申請、あるいは青山スタンダード教育機構や各種センター、委員会での申請といった教職協働、学部横断的なグループを単位とし、採択されたプログラムに対して予算補助を行っている。

○ 実施概要

【実施の目的】

本学の教育現場において実践され、成果を得られるような「教育内容の質的改善」や「教育プログラムの導入・実施」などの取り組みが期待される。また、得られた成果は全学で共有し、発展的に活用するとともに、将来的には学外GPなどへの発展によって、本学の社会的評価が高められるような取り組みが期待される。

【採択件数】 2~4 件程度

【予算配分予定額】 総予算 500 万円（上限額）

使途について

- ※ 懇親会等での飲食代としての使用は不可
- ※ 物品購入費としての使用は、できる限り避けること
- ※ 同テーマの助成金との併用は認めない

【申請グループ・単位の考え方について】

申請の単位は、学部・学科、研究科など既存の組織に限定せず、教員や職員、学部・学科等を横断したグループでも可能である。ただし、本制度の目的を「本学で行われる教育の質的向上をめざす取組みや新たな教育プログラムの開発」としているため、学外者は含めない。

【プログラムの採択・予算配分額の審査および実行後の評価】

大学執行部が選定した、約3名程度の他大学の高等教育の専門家等からなる外部評価委員が、プログラムの採択、予算配分額の審査、及び実施後の評価を執り行う。

【審査の基準】

- ・本制度の目的にふさわしい企画であること
- ・実効性をもち目標を達成する可能性があること
- ・本学の特徴を生かした企画であること
- ・予算的に妥当な計画であること 等

【採択後の義務】

期限内に定められた報告書を提出すること
成果について学内発表する機会を設けること
ホームページ、刊行物によって成果を公表すること

【スケジュール】

2018年3月8日（木）	募集開始
2018年4月20日（金）	応募締切
2018年4月23日（月）～5月14日（月）	評価委員会による審査・配分額の査定
2018年5月下旬	プログラム代表者へ採用・不採用の連絡 採用の場合は決定配分額の連絡、各プログラムの活動開始
2019年2月28日（木）	活動終了、各プログラムより活動報告書及び決算報告書の提出
2019年3月中～下旬	評価委員会による活動成果の審査及び結果講評
2019年6月29日（水）	各プログラムの成果報告会を開催し、取り組み内容を公表

○ 2018年度 「教育改善支援制度」 採択事業一覧

代表者氏名	稻積 宏誠(社会情報学部)
事業計画テーマ	学生意識調査の有効活用:現場ニーズの把握と現場へのフィードバック
メンバー	大林 真也
支援金額	1,218,500円
採択理由	<p>学生の意識調査の結果を教育と連動させ、大学全体で有効活用する体制を確立しようとしており、全学への波及効果を期待できる点で本制度にふさわしい。</p> <p>将来構想を視野に入れた上で、今年度はフィードバックサイクルの具体的な手順の定着を目標とされたい。</p> <p>継続的な取り組みであり、予算的にも実効性が高いと評価できる。</p> <p>今年度は分析結果の公表と全体的なFD活動に繋がることを期待したい。</p>
結果コメント	<p>2016年度から実施されてきた、「大学教育における課題把握と教育改善」を目指した継続的な企画であり、前年の結果を活かしてまとめられている。入学当初から学習意欲や成長感の低下を予測できるといった知見を提供されたことは、おおいに評価できる。</p> <p>また、各種学会発表などの成果報告も評価したい。</p> <p>一方、年度計画書にあった、データマイニング・テキストマイニングの授業・ゼミでの学習活動、社会統計・社会調査の授業での学習活動などは実施に至っていない。また分析結果なども、各部署へのフィードバックが実現していない。この点は非常に残念な結果であり、今後の方略に関する記述がほしいところである。</p> <p>決算報告書に計上されているのは予算の約4分の1であり、「予算の見積もり方」や「活動スケジュール」に問題があったのではないかと思われる。</p>
代表者氏名	小西 範幸
事業計画テーマ	会計専門職大学院のもつ教育リソースのメディア活用－社会人向け教育および学部教育への利用－
メンバー	久持 英司、小林 裕明、町田 祥弘、近藤 努
支援金額	1,000,000円
採択理由	<p>本学での会計士養成教育について、研究科と学部をリンクさせ、教育リソースの有効活用をするという点で、教育改善と改革に資するものである。全学的な広がりがあり、本制度の目的にふさわしいものと評価できる。</p> <p>遠隔教育の実施状況調査ならびに機材の有効活用など、プロジェクトの目的に沿う形での予算執行を進められたい。</p> <p>社会人学生をはじめとしたニーズに応える素晴らしい取組である。既存の授業実践を踏まえて情報メディアセンターとの連携をするなど、本学の特徴を活かした実効性の高い取組と評価できる。</p> <p>是非、適切な予算執行と日程調整を含め、十分な成果を期待したい。</p>
結果コメント	<p>社会人向け教育や大学院と学部教育との連携を進めるために、受講者本位の教育方法を提供することを目的として、効果的なメディアの活用を模索するプロジェクトであり、</p> <p>教育手段に関する大変興味深い新たな取組みであった。研究科教員全員が主体的に関わる必要があるなどの気づきにもつながっており、教育改善にも大きな成果があつたものと評価できる。</p> <p>一方、利用者数の少なさや欠席者が閲覧しなかつたこと等については、取組みの1年目であることから、対象となる受講生へのPRが行き届いていないのではないかと懸念される。</p> <p>予算に関しても、備品の購入や、遠隔教育に関する実態調査が進行中であり、執行が3分の1以下に止まっているなど、活動スケジュールの立て方に課題があつたのではないかと懸念される。</p> <p>なお、1年間で成果を得ることの難しさを実感されたのではないかと思われ、これらの課題の克服、および学部・研究科内の先生方に広く認知・参加・活用いただく方略等、次年度以降にも引き続き取り組み、大学の教育改善をさらに前進させていかれることを期待する。</p>
代表者氏名	野末 俊比古
事業計画テーマ	学内における学習資源の有機的・連動的活用による授業支援プログラムの構築－ラーニングコモンズとしての図書館等におけるメニュー型学習パッケージの教職員共同による開発－
メンバー	佐藤 剛、西村 香、大足 恒平、丸山 広、神戸 勉、永作 綾、永見 聰一朗
支援金額	1,525,000円
採択理由	<p>学内の各センター・施設の整備が進む中で、全学的な授業改善、学習資源の拡充に資するコンテンツの開発を目指すというものであり、大変意義深いものと評価できる。</p> <p>学内スタッフと教員の連携が計画されているが、教育の質保証のためのモデルプログラムの開発・検証にあたっては部局・教員との連携を十分に図られたい。</p> <p>計画的な予算執行においては時間外学習を視野に入れたスケジュールを望みたい。</p> <p>過去2カ年の実績を踏まえた上で実効性は高いが、さらに具体的かつ戦略的な計画と運用を期待したい。</p>
結果コメント	<p>単年度の取り組みであるが、過去2年間の活動を踏まえ、プロジェクトおよび学内の他事業の進捗状況や教員の事情を反映させながら、柔軟にプロジェクトを運営しているプロセスは評価できる。「国内実践例の調査」および、「本学における授業例の調査」の成果も妥当である。</p> <p>一方で、教員への聞き取り調査から、どのように汎用性のある教材を考えたのかについては、報告書に記載がほしかった。また、開発された教材が授業と関連しながら具体的にどのように使われるかについても、詳しく説明がほしかった。</p> <p>決算報告書における「教材管理システム」の内訳についても、より詳しく記述してほしかった。なお、予算の執行に関しては、未使用額があり、活動スケジュールの見積りが少し甘かったのではないかと思われる。</p>

青山学院大学FDフォーラム 2019. 5. 29
学生意識調査の有効活用
 現場ニーズの把握と現場へのフィードバック

社会で活躍できる自信とは

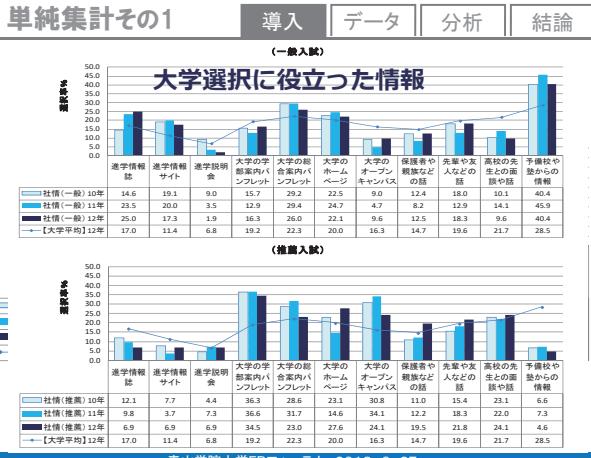
社会情報学部 稲積宏誠 大林真也
 2019/7/30

大学関係者にとって 導入 データ 分析 結論



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

2



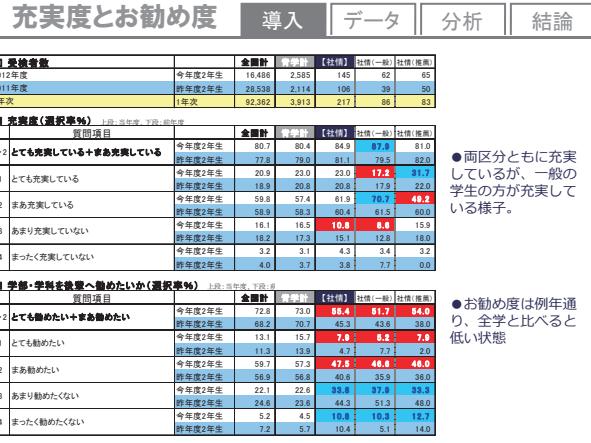
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

3



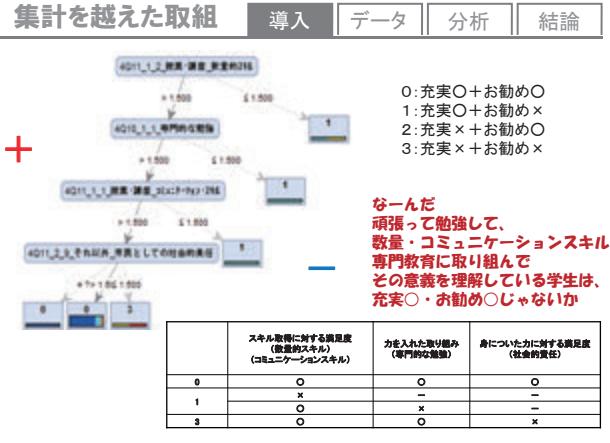
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

4



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

5



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

6

集計を越えた取組

導入 データ 分析 結論

- 0:充実○+お勧め○
1:充実○+お勧め×
2:充実×+お勧め○
3:充実×+お勧め×

赤字:取り組んだ項目
青字:取り組まなかつた項目

- 0:充実○+お勧め○
1:充実○+お勧め×
2:充実×+お勧め○
3:充実×+お勧め×

赤字:取り組んだ項目
青字:取り組まなかつた項目

前提条件	
大学教育への総合満足度	キャンパスの立地
大学教育への総合満足度	自己責任能力を身につける
大学教育への総合満足度	課題・レポートを提出する
大学教育への総合満足度	（少）自分で情報を収集する
大学教育への総合満足度	自分で考えるがんばるようになった
大学教育への総合満足度	自分で考えることのやさしさを知った
大学教育への総合満足度	自分でついで深いと考えるようになつた
大学教育への総合満足度	新しい知識を吸収する楽しさを知った
課題・レポートを提出する	自分の進路・キャリアを選択する力がついた

前提条件	
友達との交流	資格取得のための勉強
サークル活動	資格取得のための勉強
サークル活動	教員との交流
サークル活動	必要な学習や復習をしてもらうに慣む
大学のイメージランド	授業と将来を結びつけて考えるようになった
教員との交流	資格取得のための勉強
授業内容について教員に質問する	資格取得のための勉強
インターネットで情報を探す	授業と将来を結びつけて考えるようになった
インターネットで情報を探す	授業と将来を結びつけて考えるようになった

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

7

集計を越えた取組

導入 データ 分析 結論

- 0:充実○+お勧め○
1:充実○+お勧め×
2:充実×+お勧め○
3:充実×+お勧め×

赤字:取り組んだ項目
青字:取り組まなかつた項目

- 0:充実○+お勧め○
1:充実○+お勧め×
2:充実×+お勧め○
3:充実×+お勧め×

赤字:取り組んだ項目
青字:取り組まなかつた項目

前提条件	
卒業論文・卒業研究	サークル活動
授業・講義・情報リテラシー	サークル活動
社会のやさしさを知った	サークル活動
人前に出ることが苦にならなくなった	サークル活動
語学に関する勉強	サークル活動
海外留学をする	サークル活動
公務員などの試験対策準備	サークル活動
必要な予習や復習をしたうえで授業に臨む	サークル活動
必要な予習や復習をしたうえで授業に臨む	満足度・就職課・キャリアセンター

前提条件	
サークル活動	アルバイト
サークル活動	資格取得のための勉強
サークル活動	図書館を利用する
サークル活動	社会の仕組みを知ることができた
サークル活動	授業と将来を結びつけて考えるようになった
サークル活動	納得いくまで調べる姿勢が身についた
アルバイト	資格取得のための勉強
アルバイト	教科書以外の文献を読む
アルバイト	授業と将来を結びつけて考えるようになった
図書館を利用する	授業と将来を結びつけて考えるようになった

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

8

分析の意義・意味

導入 データ 分析 結論

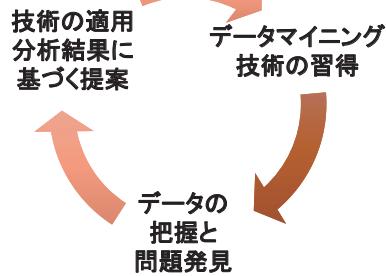
- 現状での取り組みに対して課題・問題を感じている。
問題を深掘りすることで解決のためのヒントを探る
- 現状の取組が妥当か気になる。学生の反応をデータから取組がどのように受け止められているか読み取る
ということは
大学・学部に問題意識がなければ分析の意味はない
- 学生にとって、自分たちのデータには臨場感がある
自分たちの本音、いい加減さも見えてくるので、
自分を見つめるきっかけをつくることができる
- 実データとしての持ち味がデータ分析技術を磨く
そこそこビッグデータ、不完全・不十分データ、4年間継続して収集
学生目線での分析技術に基づく
課題発見に関する恰好のテーマ

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

9

学生にとって3年次

導入 データ 分析 結論

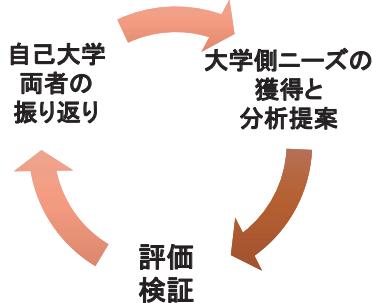


青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

10

学生にとって4年次

導入 データ 分析 結論



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

11

学生の取組例

導入 データ 分析 結論

- 大学のおかげで就活に成功した人と社会的強みにはどのような関係性が見られるのか
大学生活を通じてどのような環境要素が成長に影響を及ぼすか
英語学習の取り組みの違いはその他の学生生活とどのような関係にあるのか
学生がより長い期間にわたり充実度が高い状態で過ごせるようにするためにには何が必要か
入学時意識と卒業時の身についた感でギャップが生じる要因
社会的強みからみる学生の満足感の得かたの違い
退学者・退学予備軍の予兆発見

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

12

背景と目的

導入 データ概要 分析 まとめ

背景1 学生意識調査が学生の支援に直結しているだろうか

学生意識調査は、各学部がカリキュラムや学生支援のあるべき姿を検討するためのきっかけにするものとされている

背景2 どのような学生にどのような支援をすべきか解明したい

特に卒業時の自信の裏づけに着目

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

13

素朴な疑問

導入 データ概要 分析 まとめ

「進路に満足」=>「自信満々で卒業」じゃないの？



この違いは何か原因？

社会で活躍できる自信を持てる学生とそうでない学生の違い・その要因を解明し、卒業時に自信をもって社会に出ていける学生を増やしたい

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

14

卒業時質問項目1

導入 データ概要 分析 まとめ

- Q. あなたは、社会で活躍できる自信がどの程度ありますか。

- 1. かなり自信がある → **自信あり**
- 2. やや自信がある
- 3. どちらとも言えない
- 4. あまり自信がない
- 5. まったく自信がない → **自信なし**

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

15

卒業時質問項目2

導入 データ概要 分析 まとめ

「進路にかなり満足」の中身

- 志望先に就職が決まったから

第一志望就職グループ
(以後第一志望グループと表記)

- とりあえず就職できるから
 - 当初の志望先ではないが納得しているから
- 第二志望以下就職グループ**
(以後第二志望グループと表記)

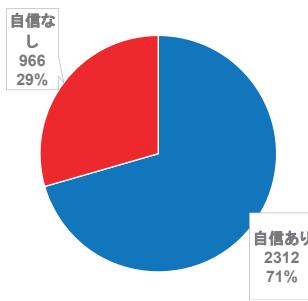
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

16

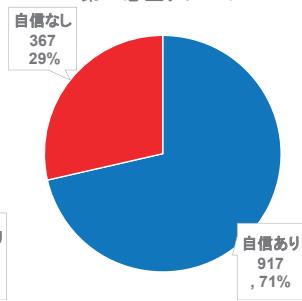
グループ内の分布

導入 データ概要 分析 まとめ

第一志望グループ



第二志望グループ



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

17

使用データ

導入 データ概要 分析 まとめ

学生意識調査(2013～2017年卒業生の1年次と4年次のデータ)

- 毎年全学生に対し、株式会社ベネッセ i-キャリアによって実施、集計がされているアンケート調査

2014年度～2017年度4年生調査
2011年度～2014年度1年生学生意識調査 I

2013年度4年生調査
2010年度学生意識調査 I

傾向の分析や
モデル作成に使用
(学習データ)

モデルの検証に使用
(テストデータ)

4年生調査(進路について)に「かなり満足」と回答 かつ 卒業後の進路が「進学、進路が決まっていない」と答えた学生を除く学生を対象

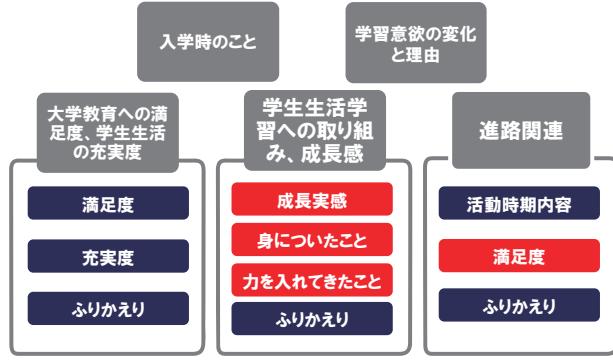
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

18

質問一覧

導入 | データ概要 | 分析 | まとめ

4年次調査 設問概要



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

19

成長実感

導入 | データ概要 | 分析 | まとめ

(1. 強く実感する 2. やや実感する 3. あまり実感しない 4. まったく実感しない)

- 自分で考えることのおもしろさを知った
- 自分に対する甘さを知った
- 人前に出ることが苦にならなくなった
- 社会のルールや厳しさを知った
- 将来やりたいことを具体的に考えるようになった
- 新しい知識を吸収する楽しさを知った
- 自分について深く考えるようになった
- 積極的に参加する姿勢が身についた
- 社会の仕組みを知ることができた
- 授業と将来を結びつけて考えるようになった
- 納得いくまで調べる姿勢が身についた
- 自分について考えることの大切さを知った
- 意思をきちんと相手に伝えるようになった
- きちんと挨拶するようになった
- 自分の進路キャリアを選択する力がついた

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

20

力を入れた活動

導入 | データ概要 | 分析 | まとめ

(1. かなり入れた 2. やや入れた 3. あまり入れなかった 4. まったく入れなかった)

- 専門的な勉強
- コンピュータに関する勉強
- 語学に関する勉強
- 資格取得のための勉強
- 公務員などの試験対策準備
- 教員との交流
- クラブサークル活動
- 社会活動(ボランティアNPOなど)
- 海外留学をする
- 友達との交流
- アルバイト
- コミュニケーションスキルを身につける
- 論理的思考力を身につける
- 文章作成能力を身につける
- 幅広い教養を身につける
- 自己責任能力を身につける
- 就職活動をする
- 卒業論文卒業研究

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

21

授業内で身についたスキル

導入 | データ概要 | 分析 | まとめ

(1. 身についた 2. やや身についた 3. どちらとも言えない
4. あまり身についていない 5. 身についてない)

- コミュニケーションスキル
- 数量的スキル
- 情報リテラシー
- 論理的思考力
- 問題解決力
- 自己管理力
- チームワークリーダーシップ
- 倫理観
- 市民としての社会的責任
- 生涯学習力

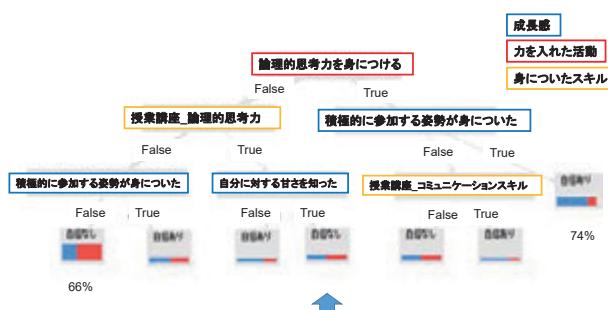
青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

22

第一志望グループ

導入 | データ概要 | 分析 | まとめ

社会で活躍できる自信
持てる学生とそうでない学生の違い



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

23

評価第一志望グループ

導入 | データ概要 | 分析 | まとめ

Accuracy=61.73%

	true 自信あり	true 自信なし	適合率
pred. 自信あり	665	371	64.19%
pred. 自信なし	410	595	59.20%
再現率	61.86%	61.59%	

Accuracy=59.56%

	true 自信あり	true 自信なし	適合率
pred. 自信あり	329	74	81.64%
pred. 自信なし	275	185	40.22%
再現率	54.47%	71.43%	

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

24

まとめ第一志望グループ 導入 データ概要 分析 まとめ

「論理的思考力を身につけるための取組を行い」
 「積極的に参加する姿勢が身についた」学生の多くは
 自信ありなっとう

「論理的思考力を身につけるための取組を行わなかった」
 「実際に授業を通じて論理的思考力は身につかなかった」
 「積極的に参加する姿勢も身についていない」学生の多くは
 自信なしひとく

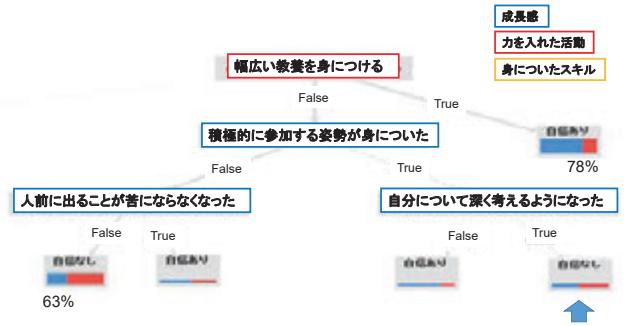
「論理的思考力を身につけるための取組を行わなかった」
 「授業を通じて論理的思考力は身につけることができた」
 「自分に対する甘さを知った」学生は
 自信なし？

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

25

第二志望グループ 導入 データ概要 分析 まとめ

社会で活躍できる自信
 持てる学生とそうでない学生の違い



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

26

評価 第二志望グループ 導入 データ概要 分析 まとめ

Accuracy=66.80%

	true 自信あり	true 自信なし	適合率
pred. 自信あり	316	120	72.48%
pred. 自信なし	160	247	60.69%
再現率	66.39%	67.30%	

Accuracy=66.14%

	true 自信あり	true 自信なし	適合率
pred. 自信あり	181	32	84.98%
pred. 自信なし	91	61	40.13%
再現率	66.54%	65.59%	

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

27

まとめ 第二志望グループ 導入 データ概要 分析 まとめ

「幅広い教養を身につけるための取組を行った」
 学生の多くは
 自信ありなっとう

「幅広い教養を身につけるための取組を行わなかった」
 「積極的に参加する姿勢は身につかなかった」
 「人前に出ることが苦にならなくなることもない」学生の多くは
 自信なしひとく

「論理的思考力を身につけるための取組を行わなかった」
 しかし「積極的に参加する姿勢が身についた」
 「自分について深く考えるようになった」学生は
 自信なし？

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

28

学生の潜在能力に着目 導入 データ概要 分析 まとめ

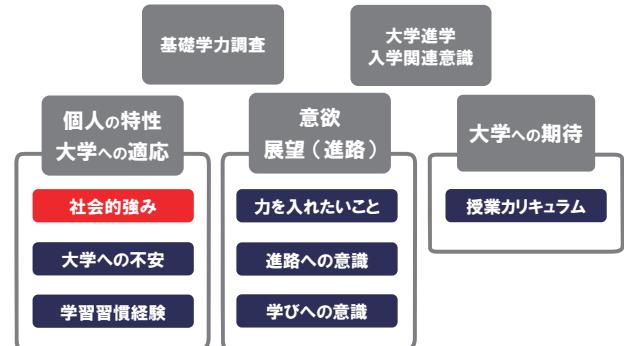
卒業時の振り返りからは説明できない学生に
 注目し、
 その潜在能力の特徴の違いから分析する

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

29

質問一覧 導入 データ概要 分析 まとめ

1年次学生意識調査Ⅰ 設問概要



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

30

自己コントロール力

導入 データ概要 分析 まとめ

カテゴリー	質問項目
意欲	Q19 目標が高いほどやる気がある
	Q37 苦手なことでもまずは取り組んでみる
	Q109 難しいことでもあきらめないで、努力してやる
自主性	Q2 手が空いた時には、自分にできることを探して周囲の人に声をかける
	Q38 困っている人に対しては、ちらから声をかける
	Q74 指示されなくてもやるべきことを見つけて動くことができる
適応力	Q39 友人はすぐ作れる方である
	Q75 新しい学校に入学した時に、すぐに慣れる方である
	Q93 いろいろな人と話をして、打ち解けあう
自己統制力	Q4 腹が立つと人前でも怒ってしまう方である(逆)
	Q58 人から感情的だ、と言われたことがある(逆)
	Q112 言ってはいけないことをつい言ってしまう(逆)
ストレス耐性	Q5 挫折しても立ち直りは早い方だ
	Q59 自分は精神的に強い方だ
	Q113 試験の時あがらない方である
持続力	Q60 面倒な作業も途中で投げ出さない
	Q96 一度決めたことは、最後までやり遂げる
	Q114 人からねばり強いと言われる

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

31

対人関係力

導入 データ概要 分析 まとめ

カテゴリー	質問項目
協調性	Q61 ひとりで考えるよりも、みんなと一緒に考えるほうが好きだ
	Q79 グループ活動には協力的な方である
	Q97 何かをする時、友人に手伝ってほしいとのめる
共感力	Q26 場の空気を読むのが得意
	Q44 他人が求めていることがよくわかり、それに応えようとする
	Q62 人に合わせるのがうまい
発信力	Q9 自分の意見をうまく伝えることができる
	Q45 あなたの話はわかりやすいと言われたことがある
	Q81 考えをまとめるのが得意だ
説得力	Q46 初対面の人でも、自分の言いたいことをきちんと理解してもらうことができる
	Q82 何かを決める時、自分の意見が通る方である
	Q118 他人に働きかけてものごとを進めるのは得意である
指導性	Q65 授業や話し合いの場面では、積極的に自分の意見を言う
	Q83 話をまとめたり役割を決めたりするのが得意である
	Q101 大勢の前で、あいさつをしたり司会をしたりするのが苦にならない

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

32

社会的態度

導入 データ概要 分析 まとめ

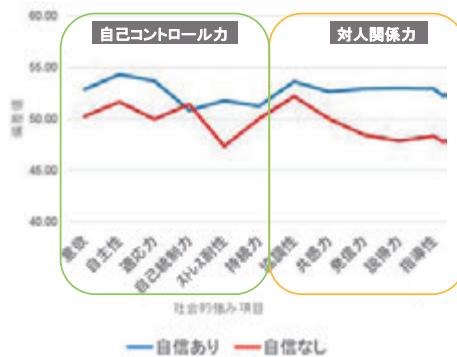
カテゴリー	質問項目
創造的態度	Q66 アイデアは、人よりもたくさん思い浮かぶ方だ
	Q102 いろいろ組み合わせて新しいものをつくり出す方だ
	Q120 すでに確立された方法や既存の考え方だとらわれずには考えることができる
現実的態度	Q31 試験勉強をする時は必ず計画を立てる
	Q67 限られた時間やお金をいかにうまく使うことができるか注意している
	Q121 将来の自分に何が必要かを考えて、履修科目を選んでいる
情報収集力	Q32 新聞やニュースを見る時、いつもなぜだろう?と考える
	Q68 ニュースについて自分なりの考えをまとめることができる
	Q122 多くの情報から何が言えるのかを考えることが好きだ
論理性	Q15 人の意見に対して論理的に反論できる
	Q87 議論やディベートが得意である
	Q87 自分の出した結論について、なぜそう考えたのかを筋道立てで説明できる
規律性	Q70 敵しい規則があっても苦にならない
	Q106 グループで行動する場合、身勝手な行動をすることはない
	Q124 何事もフェアでなければ気がすまない
国際性	Q35 機会があれば、外国で勉強や仕事をしてみたい
	Q71 外国語能力の向上のための勉強を継続的にしている
	Q89 外国の経済政治文化など、異文化理解を積極的に行っている
IT適応力	Q18 パソコンやソフトの使い方について人に教えることができる
	Q72 パソコンを使い、データの加工分析や結果をグラフなどで表現できる
	Q126 パソコンのセッティングは自分でできる

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

33

自信あり・なしの違い1

導入 データ概要 分析 まとめ

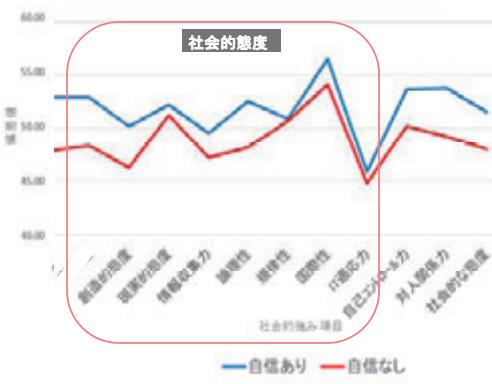


青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

34

自信あり・なしの違い2

導入 データ概要 分析 まとめ



青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

35

第一志望・自信ありの特徴

導入 データ概要 分析 まとめ

「論理的思考力を身につけるための取組を行わなかった」
「授業を通じて論理的思考力は身につけることができた」
「自分に対する甘さを知った」学生のなかで
「自信あり」の学生は

前提条件1	前提条件2	支持度	確信度	リフト値
国際性_偏差値 50以上	現実的態度_偏差値 50以上	0.33	0.63	1.30
国際性_偏差値 50以上	社会的態度_偏差値 50以上	0.30	0.63	1.29
自主性_偏差値 50以上	共感力_偏差値 50以上	0.30	0.63	1.29

自己コントロール力
対人関係力
社会的態度

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

36

第一志望・自信なしの特徴 導入 データ概要 分析 まとめ

「論理的思考力を身につけるための取組を行わなかった」
 「授業を通じて論理的思考力は身につくことができた」
 「自分に対する甘さを知った」学生のなかで

「自信なし」の学生は

前提条件1	前提条件2	支持度	確信度	リフト値
社会的態度 偏差値 50以下		0.32	0.65	1.26
持続力 偏差値 50以下		0.31	0.64	1.24
IT適応力 偏差値 50以下	創造的態度 偏差値 50以下	0.33	0.63	1.21

自己コントロール力
対人関係力
社会的態度

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

37

第二志望・自信ありの特徴 導入 データ概要 分析 まとめ

「論理的思考力を身につけるための取組を行わなかった」
 しかし「積極的に参加する姿勢が身についた」
 「自分について深く考えるようになった」学生のなかで

「自信あり」の学生は

前提条件1	前提条件2	支持度	確信度	リフト値	
説得力 偏差値 50以上			0.30	0.68	1.45
協調性 偏差値 50以上	自己コントロール力 偏差値 50以上		0.30	0.63	1.35
協調性 偏差値 50以上	適応力 偏差値 50以上		0.31	0.61	1.30

自己コントロール力
対人関係力
社会的態度

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

38

第二志望・自信なしの特徴 導入 データ概要 分析 まとめ

「論理的思考力を身につけるための取組を行わなかった」
 しかし「積極的に参加する姿勢が身についた」
 「自分について深く考えるようになった」学生のなかで

「自信あり」の学生は

前提条件1	前提条件2	支持度	確信度	リフト値
創造的態度 偏差値 50以下	説得力 偏差値 50以下	0.34	0.76	1.42
論理性 偏差値 50以下	説得力 偏差値 50以下	0.31	0.74	1.38
IT適応力 偏差値 50以下	創造的態度 偏差値 50以下	0.39	0.73	1.37

自己コントロール力
対人関係力
社会的態度

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

39

まとめ 導入 データ概要 分析 まとめ

- 志望どおりの就職=進路に満足=社会で活躍できる自信ありとはならない
- 進路への満足の度合いによって、社会で活躍できる自信の要因は異なる
- 社会で活躍できる自信あり・なしと在学中の取組とは大いに関係がある
- ただし、同じような取組をしてきたとしても、その学生が潜在的に持っている性質によって自信の有無は左右される傾向がある

- 1 論理的思考力、積極的な参加姿勢、コミュニケーションスキル、幅広い教養が在学中の取組のポイント
 2 自己コントロール力、対人関係力、社会的態度によって在学中の取組が生かされるかどうか大きく影響する

出口への責任：進路を見据えながらも教育の重要性

青山学院大学FDフォーラム 2018. 6. 27

40



青山学院大学大学院
会計プロフェッショナル研究科

青山学院大学FDフォーラム 2019.5.29 「会計専門職大学院のもつ教育リソースのメディア活用 —社会人向け教育および学部教育への利用—」活動報告

会計プロフェッショナル研究科
代表者:小西範幸 副代表者:久持英司
小林裕明 町田祥弘 近藤努

地の塩、世の光
The Salt of the Earth, The Light of the World



本事業活動実施までの状況

- ★より広く、より受講生本位の形での教育機会の提供を目指して
 - ↓
 - 研究科での社会人・有職者学生の増加への対応
 - (cf: 2018年度入学生のうち60%以上が30歳以上)
 - 平日夜間および土曜日開講科目の増設
 - 夏季休暇中、春期休暇中の集中講義(土日)の新設
 - 学部教育との連携・接続への模索
 - 大学院特別履修制度(学部4年生向け)の実施
 - 入学予定者への学習面のケア
 - 入学前プログラム(会計学入門コース; 教室受講)の実施
 - 試験対策講座の充実
 - 専門学校と提携した特別演習講座(公認会計士試験、税理士試験、米国公認会計士試験)の実施



浮び上ってきた課題

- ✓ 社会人: 有職者学生からの講義配置等に関する様々な要望
 - ・平日昼間に配置された講義も受講したい
 - ・仕事上の繁忙期等の都合により、毎回の講義に出席できない
 - ・補講が通常講義と同じコマに配置されていない場合には出席できない
 - ・教室受講の入学前プログラムの受講対象ではない
 - ✓ 学部講義との調整の難しさ
 - ・コマの配置の擦り合わせ
 - ・大学院特別履修制度が対象とする4年生以外への拡大
 - ・所属キャンパスが異なる学部生の履修
- ⇒オンライン形式による受講方法の活用により解決を図る



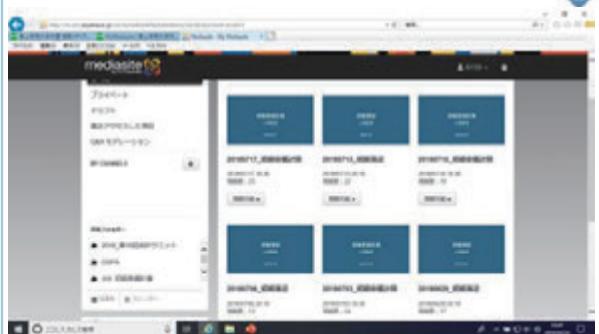
3

本事業活動の実施内容 (2018年度～現在まで)

- ①特定の講義をビデオ収録しCourse Powerを通じて配信
 - ◆ 2018年度前期開講の「初級簿記」「初級原価計算」の講義半期分(各15回)をビデオ撮影
 - ↓
 - ✓ 2018年度後期入学生向けのオンライン受講の講義として
 - ✓ 2018年度前に単位を落とした学生向けに、次年度前期の正規受講までの自習教材として
 - ✓ 全学部生向け「特別演習講座」として(オンライン受講者を募集)
 - ✓ 入学前プログラムをオンライン受講形式に変更し、全入学予定者(社会人・有職者含む)に対象を拡大



4

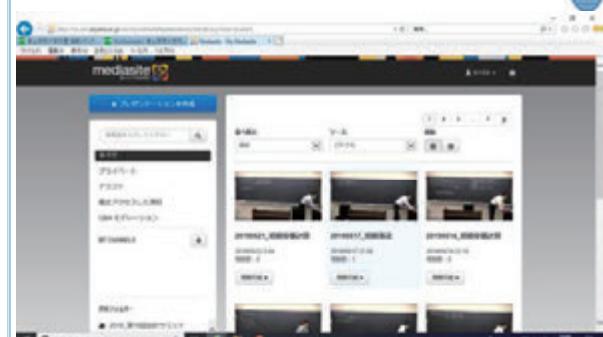


5

- ②研究科実施の各種イベントをビデオ撮影しCourse Powerを通じて配信
 - ◆ 青山学院「会計サミット」(2018年7月18日[水])および「シンポジウム」(2018年12月15日[土])をビデオ撮影
 - ↓
 - ✓ 仕事または通常講義と重複したために参加できなかった学生への対応(欠席者対応)として



6

	<p>③補講をビデオ撮影しCourse Powerを通じて配信 ◆研究科の補講日(2019年1月15日[火])に実施した補講(「会計基準Ⅱ」)をビデオ撮影 ↓ ✓ 仕事またはほかの補講と重複したために参加できなかつた学生への対応(欠席者対応)として</p> <p>※補講を撮影し、欠席者向けには配信をすることでオンライン受講も認める形をとれば、補講期間に関係なく補講を教員が自由に設定することが可能</p>
<p>④教室に定点カメラおよび専用レコーダー(収録機)等を設置 ◆16号館2階16201教室に2019年3月に工事・設置 ↓ ✓ 2019年度前期開講の「初級簿記」「初級原価計算」から使用 (1)研究科受講生向けに配信(復習用、欠席時対応用、社会人・有職者学生用として) (2)全学部生向け「特別演習講座」として教室受講もしくはオンライン受講のいずれかを選択可能とした (3)2019年度秋学期入学予定者向け入学前プログラムに活用 ※2019年5月8日(水)FD研修会を開催し研究科全教員に運用方法を実地で説明</p>	
<p>⑤青学会計人クラブとの連携 ◆青学会計人クラブによる課外講座「税理士特別講座」の内容に関する調整・打合せ ↓ ✓ 現在、下記の内容を検討中 ・「税理士特別講座」を16201教室等で撮影 ⇒受講者の復習、欠席時対応、登録時期に遅れた受講生向けのバックアップ、(必要ならば)補講対応、講師の都合がつかない年度に閉講とならないためのオンライン講義用教材、などとして活用 ※その他の連携事項についても検討中(オンライン受講以外で)</p>	<p>⑥大学等における遠隔教育およびアクティブラーニングの実施状況の実態調査 ◆明治大学(とくに会計専門職大学院)における遠隔教育の状況に関するインタビュー 実施日:2018年7月29日(日) 17:00~18:00 ◆関西大学(とくに会計専門職大学院)における遠隔教育の状況に関するインタビュー 実施日:2018年12月23日(日) 18:00~19:00 ◆北海道大学(とくに会計専門職大学院)における遠隔教育の状況に関するインタビュー 実施日:2019年3月11日(月) 10:00~11:30 ◆北海学園大学におけるアクティブラーニングの実態に関するインタビュー 実施日:2019年3月11日(月) 13:00~14:00 ◆札幌学院大学におけるアクティブラーニングの実態に関するインタビューおよび関連教室の視察 実施日:2019年3月12日(火) 14:00~16:00</p>

★北海学園大学におけるアクティブ・ラーニング（「マーケティング戦略」：受講者340名）の流れ
事前の講義（オンライン受講；10分以内）
（事前講義がないときは教室講義30分）

教室にてグループ・ワークの説明

グループ・ワーク（企画立案シートの作成等；計50～60分）
（指定席；4エリアごとに4～5チーム）

各グループのリーダーが集まって情報交換
（授業中に1、2回）

リーダー・ミーティングの内容をグループに持ち帰り、企画立案シートの内容を各グループ内で再検討

各グループで企画立案シートに関する報告書・レポート作成



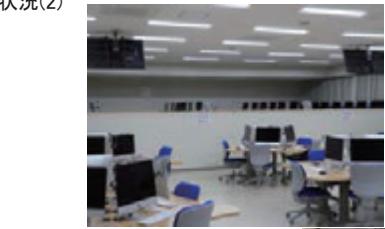
13

★札幌学院大学におけるアクティブ・ラーニング向け教室の状況(1)



14

★札幌学院大学におけるアクティブ・ラーニング向け教室の状況(2)



15

2018年度教育改善支援制度

学内における学習資源の
有機的・連動的活用による
授業支援プログラムの構築

ラーニングコモンズとしての図書館等にお
ける
メニュー型学習パッケージの
教職員共同による開発

報告 野末俊比古(教育人間科学部)

メンバー(申請時)

野末俊比古(教育人間科学部)◎
佐藤 剛(研究推進部研究推進課)○
西村 香(学術情報部図書課)
大足 恭平(情報メディアセンター)
丸山 広(情報メディアセンター)
神戸 勉(学務部国際交流課)
永作 綾(学務部国際交流課)
永見聰一郎(研究推進部研究推進課)
小林 至道(アカデミックライティングセンター)
◎代表 ○副代表

背景・動機

- アクティブラーニング型教室やラーニングコモンズ型スペースの整備、アカデミックライティングセンターの設置、新図書館建築計画の進展など
- 2017年度教育改善支援制度からの継続
- 教育の質保証(単位の実質化)と学習資源(環境)の整備

目的・意義

- 本来的な意味でのラーニングコモンズ
- 授業時間外学習のための“仕組み”
- 学内資源の有機的・連動的活用
- 授業支援プログラム(学習パッケージ)

活動(1) – 国内実践例の調査

- 「大学新図書館建築プロジェクト」における調査を活用
- 授業と結びついた教材開発の例はまれ
- 九州大学伊都キャンパス新中央図書館は教材開発センターを併設
- 武庫川女子大学附属図書館では授業の成果物を図書館資料として受入れ

活動(2) – 学内授業例の調査

- 教員へのプレリサーチ
- 教材開発の時間確保は容易ではない
- 「新規」開発のニーズも不明確
- 汎用性のある仕組みの提示が有効
- メニュー型パッケージ → 素材型プラットフォーム
- 素材のテーマは「音楽」「芸術」「国際」「民族」「情報」など

活動(3) – プロトタイプの開発

- 汎用的な教材データベースを
- 音楽素材を確保(権利処理の見込み)
- システムは買い切り
- 音楽・芸術、文化・民族、国際理解、情報モラルなどの教育に活用可

成果(1) – 教材データベースの要件・内容

○要件

- データの安全な管理
- 教職員・学生に限定
- スマートフォンで利用可
- 教材の追加が可能

○内容

- 各国の民族音楽(音源)
- 学内で利用可能(予定)
- 買い切り(更新可能)

デモ

課題・展望 – 今後に向けて

- 成果物の活用(実践)
- 学内(先生方・各部署)との協力・連携
- 体制(枠組み)づくり

ありがとうございました

7. 学生意識調査

2010 年度より学生の学習に対する期待や姿勢、大学における成長感等に関する調査を全学的に実施している。

○ 実施概要

【実施目的】

1年生（4月実施）	
（学生にとって）	学生生活の目標設定・学びと進路のつながりを意識するきっかけとする。
（大学にとって）	新入生の現状把握。PDCA サイクルの起点のデータとする。
2年生（4月実施）	
（学生にとって）	学生生活の振り返りをもとに、2 年次以降の目標の再設定をするきっかけとする。
（大学にとって）	1 年間の学生生活の満足度・成長感を把握し、教育改善につなげる。
3年生（4月実施）	
（学生にとって）	就職活動のための自己分析のツール。結果を元に自己 PR と志望動機の作成をする。
（大学にとって）	学生の満足度・成長感を把握し、教育改善につなげる。
4年生（3月実施）	
（大学にとって）	4 年間で学生が身につけた力・モチベーションの変化の把握、満足度・成長感を把握し、入学～4 年間の総括データとする。

【実施方法】

1～3 年生は 4 月、4 年生は後期（12 月～3 月）に実施する。
マークシート方式のアンケート調査で、「学修成果」の調査と「学業及び学生生活に関するアンケート」、3 年生は「基礎学力調査」と「学業及び学生生活に関するアンケート」を実施している。所要時間は約 90 分。
4 年生は「学業及び学生生活における満足度調査」に関するアンケートで、所要時間は約 30 分。
4 年生については WEB アンケート調査も実施している。

【調査結果】

アンケート委託業者による回答の集計と分析をおこない、結果報告書として各学生（1～3 年生）へフィードバックする。その際、前年以前に受検している場合は経年の変化も掲載する。

【調査結果の活用】

学生（1～3 年生）については、結果報告書を用いた外部講師によるフォローアップ講座（進路指導）を実施している。

また、調査結果を教授会等の場にて各学部へ報告し、学部運営の参考とする。また、事務職員を対象とした報告会を開催する等、学院関係者で情報を共有している。

○ 実施状況(2018年度)

【1年生】

学部	学生数(2018/5/1)	受検者数	受検率
文学部	721	673	93.3%
教育人間科学部	307	293	95.4%
経済学部	519	489	94.2%
法学部	471	448	95.1%
経営学部	495	474	95.8%
理工学部	645	614	95.2%
国際政治経済学部	289	275	95.2%
総合文化政策学部	260	247	95.0%
社会情報学部	191	175	91.6%
地球社会共生学部	196	186	94.9%
合計	4,094	3,874	94.6%

【2年生】

学部	学生数(2018/5/1)	受検者数	受検率
文学部	749	354	47.3%
教育人間科学部	340	152	44.7%
経済学部	590	154	26.1%
法学部	514	156	30.4%
経営学部	556	116	20.9%
理工学部	625	324	51.8%
国際政治経済学部	324	131	40.4%
総合文化政策学部	254	123	48.4%
社会情報学部	229	120	52.4%
地球社会共生学部	172	137	79.7%
合計	4,353	1,767	40.6%

【3年生】

学部	学生数(2018/5/1)	受検者数	受検率
文学部	791	386	48.8%
教育人間科学部	324	157	48.5%
経済学部	556	170	30.6%
法学部	505	184	36.4%
経営学部	560	161	28.8%
理工学部	772	303	39.2%
国際政治経済学部	304	87	28.6%
総合文化政策学部	279	70	25.1%
社会情報学部	281	124	44.1%
地球社会共生学部	232	95	40.9%
合計	4,604	1,737	37.7%

【4年生】

学部	学生数(2019/1/1)	受検者数	受検率
文学部	854	617	72.2%
教育人間科学部	368	304	82.6%
経済学部	630	447	71.0%
法学部	561	416	74.2%
経営学部	594	467	78.6%
理工学部	625	499	79.8%
国際政治経済学部	338	241	71.3%
総合文化政策学部	291	207	71.1%
社会情報学部	244	204	83.6%
地球社会強制学部	209	193	92.3%
合計	4,714	3,595	76.3%

8. FD 講演会

例年 FD 講演会については、年間 2 回（前期・後期各 1 回ずつ）開催していたが、2018 年度は後期のみ、1 回の開催となった。

「L G B T（性的少数者）は「いない」のではなく「見えていない」だけ」と題して講演を行った。

講師は、渋谷区役所総務部男女平等・ダイバーシティ推進担当課長 永田龍太郎氏にお願いした。なおこの講演会は、授業を担当する教員はもとより、窓口で学生の対応にあたる職員についても非常に重要なテーマであったため、「FD・SD 講演会」として開催し、職員からも参加があった。

青山学院大学 2018年度 FD・SD講演会 次第

日 時 2019年1月23日(水)14:15～14:45
場 所 第13会議室(青山キャンパス 15号館5階)
B218b会議室(相模原キャンパスB棟2階)
司会進行 学務部教育支援課 竹田 治世

1. 開会祈祷

大学宗教部長 塩谷 直也 教授

2. 開会挨拶

全学FD委員会委員長
副学長 田中 正郎 教授

3. 講演

テーマ:「LGBT(性的少数者)は「いない」のではなく「見えていない」だけ」

講師 永田 龍太郎氏(渋谷区役所 総務部
男女平等・ダイバーシティ推進担当課長)

4. 質疑応答と意見交換

5. 閉会挨拶

全学FD委員会副委員長
中野 昌宏 教授

以上

講師プロフィール

永田 龍太郎氏

渋谷区役所 総務部 男女平等・ダイバーシティ推進担当課長

1999-2002 広告会社(東急エージェンシー)

2002-2007 ヨーロッパ系ラグジュアリーブランド(LOUIS VUITTON)

2007-2016 アメリカ系アパレル小売り(Gap)

Gap時代に職場でカミングアウト。その後、マーケティングの経験を生かした社内ボランティアとして
社内外に向けたLGBT施策を立ち上げ。

これがきっかけとなり日本で初めて同性パートナーシップ制度を開始し、

基本構想「ちがいを ちからに変える街。渋谷区」を掲げる渋谷区役所へ(2016年9月～。任期付)。

LGBT(性的少数者)は「いない」のではなく 「見えていない」だけ

～13人に1人の学生、13人に1人の職員～



2019.01

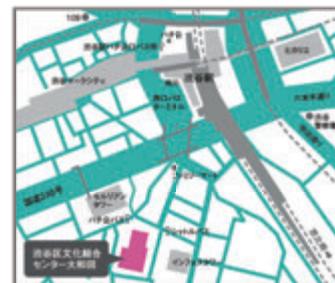


ちがいを
ちからに
見える街

イラスト：中山正大

渋谷男女平等・ダイバーシティセンター<アイリス>
(永田 龍太郎 渋谷区役所 総務部 男女平等・ダイバーシティ推進担当課長)

男女平等・多様性社会推進のための拠点施設 渋谷男女平等・ダイバーシティセンター<アイリス>



渋谷区桜丘町23-21 渋谷区文化総合センター大和田8階 03-3464-3395
www.city.shibuya.tokyo.jp/shisetsu/bunka/owada/iris.html

2



渋谷区役所3年生。
それまで17年間、マーケティング(宣伝/広告)ひとすじ



1999-2002 広告会社 (東急エージェンシー)
2002-2007 ヨーロッパ系ラグジュアリーブランド (LOUIS VUITTON)
2007-2016 アメリカ系アパレル小売り (Gap)
Gap時代に職場でカミングアウト。
その後、マーケティングの経験を
生かした社内ボランティアとして
社内外に向けた
LGBT施策を立ち上げ。



永田 龍太郎

渋谷区役所 総務部
男女平等・ダイバーシティ推進
担当課長

これがきっかけとなり、
日本で初めて同性パートナーシップ制度を開始し、
基本構想「ちがいを ちからに変える街。渋谷区」を
掲げる渋谷区役所へ (2016年9月～。任期付)。

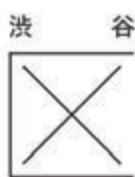


渋谷区 基本構想における 重要な取り組みの1つ

4



取り組みの背景となる渋谷区 基本構想：
ダイバーシティ & インクルージョンを掲げる



ちがいを
ちからに
見える街

youmakeshibuya.jp

2016年10月策定



目指すべきはインクルージョン！(インクルーシブな社会)
しかしダイバーシティの理解があつて初めて到達できる



Diversity & Inclusion

渋谷区のエンジンはダイバーシティとインクルージョン！

ダイバーシティ (多様性)
多様性を認識している状態

インクルージョン (社会的包摶、包含)
インクルージョーンアクション
=「多様性を認めあい、共に生きてゆく」

5



共生社会は2階建て構造
インクルージョンを育むことが肝要



みんなが、自分のありようを含めた、あらゆる多様性を認め合い
あらゆる場でだれもが活躍できる、全員参加の社会づくり



企業では「心理的安全性」という視点で語られる場合も



「心理的安全性」とは、英語のサイロジカル・セーフティ (psychological safety) を翻訳した心理学用語で、チームのメンバー一人ひとりがそのチームに対して、気兼ねなく発言できる。未来の自分を安心してまちがわせる。と感じられる
ような場の状態や雰囲気をいう言葉です。チームが問題に直面するとき、この「心理的安全性」をチーム内で実現できるか
がかかる重要な点のひとつと認識されています。これから、これからに注
目を寄せています。

(2017年9月現在) <https://jinjibu.jp/smp/keyword/index.php?act=det&id=855>

「すべての従業員の心理的安全性を担保する」 = 多様性を認め合う環境づくり
がビジネスを伸ばすために必須の要件。

6



LGBT(性的マイノリティの総称) 基礎知識

9

LGBTを含む 性的少数者は 日本には5~10%とも

- L=レズビアン** …女性として女性が好きな人
- G=ゲイ** …男性として男性が好きな人
- B=バイセクシュアル** (パンセクシュアルを含む場合)
- …性別にかかわらず恋愛対象になる人
- T=トランスジェンダー**
- …性別不合/性別違和。
- 身体的な性別と自認する性が一致しない人
- (性同一障害は病名であり、一部のみ該当)

LGBTI、LGBTQ、LGBTsなど記載の場合も、同じく性的少数者の「総称」です

X : X:ジエンダー（心の性がはっきり決まらない）
 I : インターセックス（DSD、性分化疾患）
 A : エイセクシュアル（無性愛者）
 Q : クエスチヨニング（迷っている、決められない）などなど…

*2015 電通ダイバーシティ・ラボ調べで7.6%(13人に1人)。他調査では5~8%が多い。

10



LGBTは「他人ごと」？
あなたも、多様な性の中を生きている1人です

1 体の性
2 心の性【性自認】
3 好きになる性【性的指向】
4 表現する性

LGB

性のありようは十人十色。かけあわせは無限大＝グラデーション！

11

トランスジェンダー(性別不合)は多様！
診断書/戸籍変更判断ではなく、ニーズの傾聴が重要

トランスジェンダー	
日常生活 困難ナシ	日常生活 困難アリ
性同一性障害 診断書ナシ	診断書アリ 手術しない
	手術する 戸籍 変える

※虹色ダイバーシティ資料より、レイアウトを調整して転載

性同一性障害は「性別不合(gender incongruence)」という定義になり、非病理化が確定。
現在、G7で戸籍変更に手術要件(性同一性障害特例法 2003)がある国は日本のみ。

12



LGBT当事者を取り巻く状況

13

セクシュアリティはプライバシー。
「犯人探し」はもってのほか。「善意の暴露」にも気をつけて！

隣人 同僚 同級生 顧客 親せき 家族



「カミングアウトしても、しなくてよい社会」が理想。
未だ、アウティング(暴露)がリスクになる現状。

カミングアウトを受けたときはこの3つを心がけて。
 ①「ありがとう」 ②「にいかることはある？」 ③「勝手に他人に共有しません」

14



**ライフステージやセクシュアリティによって
性的マイノリティが直面する困難は 多種多様**

こども	おとな
学校でのいじめ / ドロップアウト ハイリスク層	就職活動 / 就労継続困難
ロールモデル不在/自分探し困難	パートナーとの 法的保障なし (病院/住居/社会保険など)
相談相手/仲間見つからず	職場でのハラメント (意図的/無意識)
貧困ハイリスク層/社会福祉アウトリーチ困難	DV発見/支援 困難
健康ハイリスク層 ・自死 ・メンタルヘルス ・HIV ・乳がん など	老後の不安 (介護など)

「自分探し困難」は、少年期に自尊感情を養う機会を奪い、一生尾を引く根深い問題

15

**見えないマイノリティ」と言われるLGBT
実は 日常生活でも お困りごとに日々直面**

就職活動	色	バニクション / 職場コヒー	ダブルマイノリティ
服/制服	トイレや 更衣室など	風呂	
自称/パートナー	スポーツ	書類/身分証明	病院/役所
ハラメント 言動	宿泊	災害時 避難所	

「二分された性」に基づいた性別規範や無理解は、生活の隅々に

LGBT差別禁止の 法制度って何だろう？ (かもがわ出版)

16



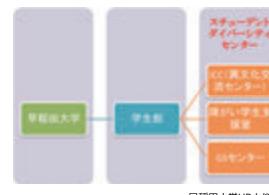
**大学の対応指針：筑波大学、立命館アシア太平洋大学など
日本学生支援機構：「大学等における性的指向・性自認の
多様な在り方の理解増進に向けて」（2018）**



jasso.go.jp/gakusei/about/publication/lgbt_shiryo.html
diversity.takubun.jp/?page_id=9482
mainichi.jp/univ/articles/20180614/org/00m/100/008000c



**性的マイノリティに特化した学生センター：
早稲田大学GSセンター（2017）**



早稲田大学HPより

開学150周年に向け、2015年3月に開催された「Waseda Vision 150 Student Competition」にて、学生が提案した『日本初！LGBT学生センターを早稲田に！』企画が総長賞を受賞したことをきっかけとなり、2017年4月に開設。

渋谷区内の大学で対応指針を持つ大学はゼロ（2018年2月現在）。

17

18



オリンピック憲章は、LGBTふくめあらゆる性差別を禁止

**このオリンピック憲章の定める権利および自由は
人種、肌の色、性別、性的指向、言語、宗教、
政治的またはその他の意見、国あるいは社会のルーツ、
財産、出自やその他の身分などの理由による、
いかなる種類の差別も受けすことなく、
確実に享受されなければならない。**

オリンピック憲章 Olympic Charter(2014年12月8日から有効)
国際オリンピック委員会
www.joc.or.jp/olympic/charter/pdf/olympiccharter2014.pdf



**2019年2月にじいろジョブトークしぶや 開催
シユーカツ生、企業/学校の人、集まれ！**

お申込みは
shibuya-niji.jp

**2/8 Fri
15:00~17:00**

**「LGBTシユーカツ実態調査から
誰もが働きやすい職場づくりを考えよう」**

◆コンテンツ◆

挨拶： 渋谷区長（予定）

報告： 「LGBTシユーカツ実態調査」報告（認定特定非営利活動法人 ReBit）

パネルトーク： 「LGBT先駆企業に推進ストーリーを聞く」

◆会場◆

渋谷董友ビル（キューピー本社ビル）2階

（17:10~18:00主催：認定特定非営利活動法人 ReBit）

◆交流会◆ 「企業の人も、シユーカツ生も、LGBTも、アライも、みんなで話そう！」

20

参考資料



イラスト：山中正大



**Youtube：虹色ダイバーシティ「niji STATION」
書籍：「はじめて学ぶLGBT 基礎からトレンドまで」**

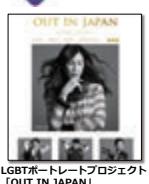


各数分の無料動画教材シリーズ。
自分でプレイリストを作って研修に活用も可能。
詳しくはYoutubeで「虹ステーション」で検索

性の多様性と、取り巻く状況について
コンパクトに学べる良書。

22

参考 動画など



LGBTボートナレーティングプロジェクト
「OUT IN JAPAN」
outinjapan.com



映画
「彼らが本気で
撮むときは。」



映画
「11才の君へ
～いろんなカタチの好き～」



映画
「カランコエの花」

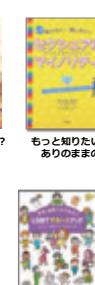


映画
「やる気あり美
動画「確信」」
「ビーエス・エス」
www.yaruki-arimi.com

子どもに勧められる書籍



「あつう」
ってなんだ？
LGBTについて知る本
(学研)



もっと知りたい話したい
セクシュアルマイノリティ
ありのままのきみがいい
(1)～(3) (汐文社)



セクシュアル
マイノリティ
(1)～(3) (汐文社)



わたくしらしく、LGBTQ
(1)多様な性のありかたを知ろう
(2)家族や周囲にどう
伝える？ (3)トランスジェンダーってなに？ (4)心からだを大切にしよう
(大月書店)

23

24



25



26



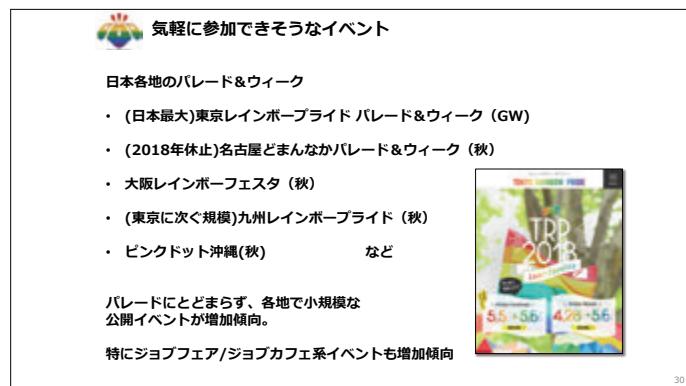
27



28



29



30

性的指向と性自認に関する 国レベルの主な動き(2001-)	
2001 法務省	「人権救済制度の在り方について」(人権擁護審議会)
2002 法務省	人権教育・啓発に関する基本計画、人権週間強調事項
2003 法務省	性同一性障害者の性別の取扱いの特例に関する法律
法務省 外務省	外交官の同性配偶者を異性配偶者と同様の扱い(「外交関係に関するウィーン条約」の「家計を共にするもの」)
2008 文科省	人権教育の指導方法等の在り方について(「個別的な人権課題に対する取組」)
2009 法務省	啓発活動年間強調事項
2010 文科省	児童生徒が抱える問題に対する教育相談の徹底について(通知)
内閣府	子ども・若者ビヨン(子ども・若者育成支援推進本部)
内閣府	第3次男女共同参画基本計画(内閣府、法務省、文部科学省、関係府省、法務省)
2012 内閣府	改正: 自殺総合対策大綱
2013 文科省	学校における性同一性障害に係る対応に関する状況調査
法務省 防衛省	外国法の同性配偶者・駐留米軍関係者の同性配偶者を異性配偶者と同様の扱い
厚労省	改正: 男女雇用機会均等法(通称セクハラ指針)、「事業主が職場における性的な言動に起因する問題に関して雇用管理上講すべき措置についての指針」→性別間のセクハラ

31

性的指向と性自認に関する 国レベルの主な動き(2015-)	
2015 文科省	性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施等について
内閣府	第4次男女共同参画基本計画
2016 文科省	性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細やかな対応等の実施について
厚労省	改正: 公正な採用選考の基本
2017 厚労省	改正: 男女雇用機会均等法(通称セクハラ指針)。「事業主が職場における性的言動に起因する問題に関して雇用管理上講すべき措置についての指針」→LGBTを標榜する発言など)
文科省	改正: いじめ防止対策推進法(「いじめの防止等のための基本的な方針」)
組織 委員会	Tokyo 2020 アクセシビリティ・ガイドライン、持続可能性に配慮した調達コード(公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会)
2018 厚労省	改正: モデル就業規則
	平成30年度診療報酬改定(性同一性障害の性別適合手術 保険適用)
	改正: 公共交通機関の旅客施設・車両等に関するパリアフリー整備ガイドライン(旅客施設→公共交通機関等におけるいじめゆる「性的マイノリティ」の子どもに対するきめ細やかな対応の実施等について)
厚労省	児童養護施設等におけるいじめゆる「性的マイノリティ」の子どもに対するきめ細やかな対応の実施等について

32

9. その他の FD 活動

2014 年度より、本学教員を対象とした「教員のための英語研修プログラム」を開催している。2018 年度も 7 月 11 日、12 月 5 日の計 2 回、青山キャンパスにて実施した。

また、全学部にて科目ナンバリングを実施し、2019 年度入学生に開示した。

○ 2018 年度 教員のための英語研修プログラム

2018 年度も昨年に引き続き、教員のための英語研修プログラムを年間 2 回実施した。講師は、英国の公的国際文化交流機関であるブリティッシュ・カウンシルから招き、研修はすべて英語で実施した。参加者は第一回 4 名、第二回 2 名で例年と比較し、やや少なめであったが、プログラムの満足度は例年どおり高い評価となった。詳細は下記のとおりである。

【第 1 回目】

日 時：2018 年 7 月 11 日（水）10：00～17：10

参加者：4 名

内 容：「ゼミとディスカッショングループ」英語でゼミやグループでの議論の進行をコントロールし、参加するすべての学生の意見をきちんと汲み取れるようになる。また、各学生にフィードバックする際、的確な表現を用い、効果的にアドバイスする方法を身につける。

【第 2 回目】

日 時：2018 年 12 月 5 日（水）10：00～17：10

参加者：2 名

内 容：「少人数クラスのマネジメント」少人数のクラスをどのようにプランニングし、効果的に授業を行うかを学ぶ。クラスで使用される必要な英語を学び、講義をコントロールしながら学生を導く手法を身につける。最終的には学生を中心に考えたアプローチを使い、学生が自ら考え協力しながら学ぶことを促す。

【参加者アンケート】

● 研修について

Q1. 研修のレベルは適切でしたか。

回答		合計	
		7月11日	12月5日
難しい	難しすぎた	0	0
	やや難しかった	0	0
適切		4	2
簡単	やや易しかった	0	0
	易しすぎた	0	0
無回答		0	0
合計		4	2

Q2. 曜日、時間のご都合はいかがでしたか。

回答	合計	
	7月11日	12月5日
都合が良かった	4	1
予定があわなかつた	0	0

無回答	0	1
合計	4	2

Q3. 研修期間は適切でしたか。

回答		合計	
		7月11日	12月5日
長い	長すぎた	0	0
	やや長かった	1	0
	適切	3	2
短い	やや短かった	0	0
	短すぎた	0	0
	無回答	0	0
	合計	4	2

Q4. 研修内容はご自身のニーズに合っていましたか。

回答		合計	
		7月11日	12月5日
肯定	常にあっていた	3	0
	大抵あっていた	1	2
中間	時々あっていた	0	0
否定	あまり合っていない	0	0
	全く合っていない	0	0
	無回答	0	0
	合計	4	2

Q5. この研修を履修して英語力、英語スキルが上がったと思いますか。

回答		合計	
		7月11日	12月5日
はい		4	2
いいえ		0	0
無回答		0	0
合計		4	2

● Q5 の理由

- ：・様々な表現を学ぶことができ、生きた英語で会話ができたから。
- ・学んだことを実演する時間があったので、勉強になった。
- ・便利な言い回しを教えてもらえた。
- ・討論の表現は慣れていなかったので勉強になった。
- ・具体的な提案がもらえた。

○ 科目ナンバリング

本学の学士課程における全ての科目に、教育課程上の学修段階、学修順序、学修内容等を示すコード番号を付す「科目ナンバリング」を実施している。全学 FD 委員会にて作成した全学的なコード体系に基づき、青山スタンダード及び各学部において科目ナンバリングの作成が行われた。

科目ナンバリングによって、青山スタンダード及び各学部の教育課程における科目一つ一つの位置づけが示されることにより、各年度、さらには大学生活全体における修学計画を学生が検討する際等に、その参考となることが期待される。

2018 年度末までに青山スタンダード及び各学部の全ての科目について科目ナンバリングが行われ、その結果を 2019 年度入学生に開示している。

【コード体系】

全ての科目に 7 桁の英数字から構成されるコードを付し、教育課程体系上の位置付けを示している。各桁の意味は次のとおり。

桁数	1	2	-					3	4	5	6	7
コード例	A	A						A	A	1	0	1
意味	学部等	学科等	教育課程上の区分					(大区分)	(小区分)	配置年次	科目番号	
使用文字	英字	英字						英字	英字	数字	数字	

1・2 桁目：学部・学科等（どの学部・学科（・コース）等の教育課程であるかを示す）

3・4 桁目：教育課程上の区分（当該学部・学科の教育課程上の区分を示す）

（3 桁目）大区分・・・卒業要件（科目領域、科目区分等）による区分

（4 桁目）小区分・・・学修内容（学問分野等）による区分

5 桁目：配置年次（科目的配置年次（最低履修可能年次））

6・7 桁目：科目番号（科目的位置付けや科目間のつながり等を示す（科目番号の付け方は学部・学科等によって異なる））

○ 2018年度 科目ナンバリング コード一覧表(1~4桁目)

桁数	1	2	3	4
内容	学部等	学科等	教育課程上の区分(大)	教育課程上の区分(小)
コード ・ 意味	G 青山スタンダード	青山スタンダード科目 G 青山スタンダード科目	A キリスト教理解	A キリスト教概論 B キリスト教学 C キリスト教実習 A 人文科学総合 B 哲学 C 言語学 D 文学 E 芸術学 F 文化人類学 G 教育学 H 心理学 I 平和学 J コミュニケーション A 社会科学総合 B 法学 C 国際関係論 D 社会学 E 経済学 F 人文社会情報学 A 自然科学総合 B 科学技術史・科学(技術)論 C 数理科学 D 物理学 E 生命科学 F 工学 G 地球・環境科学 A 史学総合 B 自校史 C 現代史 D 日本史 E アジア史 F ヨーロッパ史 G 考古学 H 思想史 A 地域研究 B 言語学 C 日本学 E 英語 A 健康・スポーツ演習 B 健康科学 C スポーツ科学 D 運動実習 A 情報学総合 A 職業観・勤労観の育成 B 汎用能力の育成 C 実践能力の育成 D 職業選択力 E 仕事力 O 初年次教育 F 言葉の技能(フランス語) G 言葉の技能(ドイツ語) S 言葉の技能(スペイン語) C 言葉の技能(中国語) R 言葉の技能(ロシア語) K 言葉の技能(韓国語) E 言葉の技能(英語・仏文) I 言葉の技能(英語・外国人留学生) J 言葉の技能(日本語)
			B 人間理解	
			C 社会理解	
			D 自然理解	
			E 歴史理解	
			F 言葉の技能	
			G 身体の技能	
			H 情報の技能	
			I キャリアの技能	
			O 初年次教育	
		L 青山スタンダード科目 (第二外国語)	F 言葉の技能(フランス語)	F フランス語
			G 言葉の技能(ドイツ語)	G ドイツ語
			S 言葉の技能(スペイン語)	S スペイン語
			C 言葉の技能(中国語)	C 中国語
			R 言葉の技能(ロシア語)	R ロシア語
			K 言葉の技能(韓国語)	K 韓国語
			E 言葉の技能(英語・仏文)	E 英語
			I 言葉の技能(英語・外国人留学生)	E 英語
			J 言葉の技能(日本語)	J 日本語

桁数	1	2	3	4
内容	学部等	学科等	教育課程上の区分(大)	
コード ・ 意味	L 文学部	英米文学科	A イギリス文学・文化	A イギリス文学・文化
			B アメリカ文学・文化	A アメリカ文学・文化
			C グローバル文学・文化	A グローバル文学・文化
			D 英語学	A 英語学
			E コミュニケーション	A コミュニケーション
		フランス文学科	F 英語教育学	A 英語教育学
			G 専門科目(英語)	A 英語専門導入
			L 英語	B 発展英語
			J 日本語科目	C 翻訳・通訳
			A フランス語	E 英語
コード ・ 意味	L 文学部	日本文学科	B フランス文学	J 日本語
			C フランス語学	A フランス語
			D フランス文化	A フランス文学
			J 日本語科目	A フランス語学
			A 学科共通 概論・入門 演習 講義	B 中国文学
		史学科	B	C 日本語学
			C	D 日本語教育
			D	E 表象文化論
			E	F 文学交流
			L 外国語	G 書道
コード ・ 意味	L 文学部	比較芸術学科	A 日本史	E 英語
			B 東洋史	J 日本語
			C 西洋史	A 日本史
			D 考古学	A 東洋史
			E 共通	A 西洋史
		A 文学部共通	L 外国語	A 考古学
			A 専門基礎	A 史学総合
			B 美術	B 教職・資格
			C 音楽	E 英語
			D 演劇映像	J 日本語
コード ・ 意味	L 文学部	C 文学部共通	E 共通	A 芸術学総合
			L 外国語	B 美術
			A 文学部共通	C 音楽
		B 哲學・倫理学	A 演劇映像	D 演劇映像
			B	A 比較芸術学専門
			C	B 資格
			D	E 英語
			E	F 文字
			F	G 言語学
			G	H 社会学

桁数	1	2	3	4
内容	学部等	学科等	教育課程上の区分(大)	
コード ・ 意味	P E	教育人間科学部 E	P 教育学科	O 第0群 A 第I群 B 第II群 C 第III群 D 第IV群 E 第V群 F 第VI群 G 第VII群
			Y 心理学科	A 第I群 B 第II群 C 第III群 D 第IV群 E 第V群 F 第VI群 G 第VII群 H 第VIII群
			L 外国語	E 英語
		経済学部	E 経済学科	A 入門科目 B 基礎科目 C 理論・数量 D 政策・産業 E 歴史・国際・地域 F 演習等 G 関連科目
			D 現代経済デザイン学科	A 入門科目 B 基礎科目 C 専攻科目 D 演習 E 実践科目 F 関連科目
			L 外国語	A 第一外国語
				O 教育学基礎 A 教育史・教育哲学 B 教育社会学・生涯発達論 C 臨床教育学・障害児教育学 D 生涯学習論・社会教育学・高等教育論 E 認知科学・メディア論・教育情報学 F 図書館情報学 G 幼児教育学 H 保育学 I 児童教育学 J 教科教育学(初等) K 教科教育学(中等) L キリスト教教育論
				A 基礎心理学 B 認知心理学 C 発達心理学 D 社会心理学 E 臨床心理学 F 心理総合 G 哲学
				A 英語
				A 経済学総合 B 理論経済学 C 経済史 D 経済統計 E 経済政策 F 財政・公共経済 G 産業組織論 H 労働経済論 I 金融・ファイナンス J 人文地理学 K 外国書講読 L 公法学 M 民事法学 N 社会法学 O 経営学 P 会計学 Q 商学 R 人文・社会学
				A 現代経済デザイン総合 B 理論経済学 C 財政・公共経済 D 経済政策 E 人文地理学 F 経済統計 G 経済史 H 政治学 I 公法学 J 民事法学 K 社会法学 L 経営学 M 会計学 N 商学 O 人文・社会学
				E 英語 J 日本語

桁数	1	2	3	4
内容	学部等	学科等	教育課程上の区分(大)	
コード ・意味	J 法学部	J 法学科	A 科目群 I	A 演習科目
			B 科目群 II	A 入門科目
			C 科目群 III	B 基礎法
			D 科目群 IV	C 外国法
		L 外国語	A 公法	A 政治学
	B 経営学部	B 経営学科	B 私法	B ビジネス法
			C 社会法	C 公共政策
			D 政治学	D 司法
		M マーケティング 学科	A ヒューマン・ライツ	D ヒューマン・ライツ
			E 第一外国語	E 英語
	S 理 工 学 部	P 物理・数理学科	J 日本語	J 日本語
			A 専門基礎科目	A 会計学
			B 共通専門科目	B 経営学
			C グローバルビジネス科目	C 商学
			D 経営学科専門科目	D データ科学
			E マーケティング学科専門科目	E 経済学
			F 経営学関連科目	F ファイナンス
			I マーケティング	I 産学連携
			J 学科	J 法学
			K 国際文化	K 国際文化
			M マークティング	M マークティング
			S 演習	S 演習
		L 外国語	L 第一外国語	L 英語
		L 外国語	N 日本語	N 日本語
		A Basic Experiment	A 第一外国語	E English
		A Basic Experiment	J 日本語	J Japanese
		C 物理、数理、共通科目	A 物理学総合	A 物理学総合
			B 化学総合	B 化学総合
			C 電気工学総合	C 電気工学総合
			D 機械工学総合	D 機械工学総合
			E 情報学総合	E 情報学総合
	P 物理・数理学科	P 物理科学コース	A 力学	A 力学
			C 代数	C 代数
			D 解析	D 解析
			E 数学総合	E 数学総合
			F 物理・数理総合	F 物理・数理総合
	P 物理・数理学科	P 物理科学コース	G 化学総合	G 化学総合
			H 情報学基礎理論	H 情報学基礎理論
			I 哲学・倫理学	I 哲学・倫理学
			J インターナシップ	J インターナシップ
			A 力学	A 力学
	P 物理・数理学科	P 物理科学コース	B 連続体力学	B 連続体力学
			C 熱力学	C 熱力学
			D 電磁気学	D 電磁気学
			E 地球惑星科学	E 地球惑星科学
			F 生物物理	F 生物物理
	P 物理・数理学科	P 物理科学コース	G 物理科学総合	G 物理科学総合
			H 代数	H 代数
			I 解析	I 解析
			J 幾何	J 幾何
			K 確率統計	K 確率統計
	P 物理・数理学科	P 物理科学コース	L 微分方程式	L 微分方程式
			N 数学総合	N 数学総合
			O 化学総合	O 化学総合
			P 電気工学総合	P 電気工学総合
			Q 機械工学総合	Q 機械工学総合
	P 物理・数理学科	P 物理科学コース	R 経営システム総合	R 経営システム総合
			S 情報学総合	S 情報学総合
			T 量子力学	T 量子力学

桁数	1	2	3	4	
内容	学部等	学科等	教育課程上の区分(大)		
コード ・意味	S 理 工 学 部	P 物理・数理学 科	P	物理科学コース	U 統計力学 V 素核・宇宙科学 W 物性物理学 B 数理科学総合 A 代数 D 微分方程式 C 解析 S 確率統計 G 幾何 P 物理
			M	数理科学コース	A 物理化学 B 無機化学 C 有機化学 D 生命科学 E 化学総合 F 化学・生命科学総合 G 物理学総合 H 数学総合 I 代数 J 解析 K 確率統計 M 情報学総合 N 機械工学総合 O 電気工学総合 P 経営システム総合 S インターンシップ
			A	数学・共通科目 講義科目 実験・演習科目 (基礎実験を除く) 専門実験 輪講・卒業研究 選択必修 I 選択必修 II	A 電子工学 B 制御工学 C 電力工学 D 通信工学 E 電気電子工学総合 F 物理学総合 G 数学総合 H 代数 I 解析 K 微分方程式 L 化学総合 M 機械工学総合 O 経営システム総合 P 工業総合 Q インターンシップ R モデル化技術 S 分析技術 T 情報学基礎 U メカトロニクス V 人間情報学 W 情報テクノロジー総合 X 材料力学 Y 計測工学 O 物理科学総合
			B	専門実験・実習・ 演習	
			C	輪講・卒業研究	
		E 電気電子工 学科	D	専門科目	
			A		
			B		
			C		
			D		

桁数	1	2	3	4
内容	学部等	学科等	教育課程上の区分(大)	教育課程上の区分(小)
コード ・ 意味	S 理 工 学 部	M 機 械 創 造 工 学 科	A B 選択科目	A 力学 B 流体力学 C 材料力学 D 設計工学 E 熱力学 F 機械加工 G 機械力学 H 計測工学 I 制御工学 J 生産工学 K 機械工学総合 L 情報学総合 M 物理学総合 N 数学総合 O 代数 P 解析 R 微分方程式 S 化学総合 V インターンシップ W 分析技術 X メカトロニクス Y 最適化技術 Z 情報学基礎 O 情報テクノロジー総合 1 計算基盤 2 モデル化技術 3 経営システム工学総合 4 電子工学 5 電気電子工学総合 6 電力工学 7 人間情報学 8 工業総合
	S	S 経 営 シ ス テ ム 工 学 科	A B C D E F G H I J K 選択科目	A 分析技術 B モデル化技術 C 最適化技術 D 経営システム工学総合 E 情報学総合 F 物理学総合 G 数学総合 H 代数 I 解析 J 微分方程式 K 化学総合 M 機械工学総合 O インターンシップ P 力学 Q 情報学基礎 R 材料力学 S 熱力学 T 機械力学 U 流体力学 W 情報テクノロジー総合 Y 計算基盤 Z メカトロニクス O 人間情報学 1 電気電子工学総合 2 電子工学 3 計測工学 4 機械加工

桁数	1	2	3	4
内容	学部等	学科等	教育課程上の区分(大)	教育課程上の区分(小)
	S	理 工 学 部	I 情報テクノロジー学科	<p>A 数学・共通科目 B 専門実験・実習・演習 C 輪講・卒業研究 D 第1科目群 E 第2科目群 F 選択科目</p>
コード ・意味			P 国際政治学科 政治外交・安全保障コース	<p>A A群科目 B B群科目 C C群科目</p>
			G 国際政治学科 グローバル・ガバナンスコース	<p>Z 演習 P 政治学 I 国際関係 J 国内関係 R 地域関係 X その他 E 国際経済関連 C 国際コミュニケーション関連 G Global Studies Program F 外国書講読</p>
		I 国際政治経済学部	E 国際経済学科 国際経済政策コース	<p>A A群科目 B B群科目 C C群科目</p>
			B 国際経済学科 国際ビジネスコース	<p>Z 演習 T 経済(理論分析) S 経済(データ分析) O 応用経済 D 開発経済 B ビジネス・ファイナンス R 地域関係 X その他 P 国際政治関連 C 国際コミュニケーション関連 G Global Studies Program F 外国書講読</p>
			C 国際コミュニケーション学科 国際コミュニケーションコース	<p>A A群科目 B B群科目 C C群科目</p>
				<p>Z 演習 C コミュニケーション A 文化 L 言語 M 方法論 R 地域関係 X その他 P 国際政治関連 E 国際経済関連 G Global Studies Program F 外国書講読</p>

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	I	国際政治経済学部	L	外国語	A	A群科目	E	Reading/Writing Skills based classes
						B群科目 C群科目	F	フランス語
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	D	ドイツ語
						G	S	スペイン語
コード ・ 意味	L	外国語	A	第一外国語	E	中国語 ロシア語 韓国語 日本語 English for Juniors and Seniors	C	中国語
							R	ロシア語
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	K	韓国語
							J	日本語
コード ・ 意味	L	外国語	A	第一外国語	E	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	E	English for Juniors and Seniors
							A	総合文化政策学
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	B	メディア文化
							C	都市文化
コード ・ 意味	L	外国語	A	第一外国語	E	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	D	アートマネジメント
							E	経済学・経済理論
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	F	経済政策
							G	経済史
コード ・ 意味	L	外国語	A	第一外国語	E	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	H	社会学
							I	人文社会総合
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	J	経営学
							K	会計学
コード ・ 意味	L	外国語	A	第一外国語	E	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	L	商学
							M	法学総合
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	N	政治学
							O	国際関係論
コード ・ 意味	L	外国語	A	第一外国語	E	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	P	地域研究
							Q	博物館学
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	R	芸術一般
							S	哲学・倫理学
コード ・ 意味	L	外国語	A	第一外国語	E	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	T	思想史
							U	宗教学
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	V	情報学総合
							W	文化人類学
コード ・ 意味	L	外国語	A	第一外国語	E	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	X	美学・芸術諸学
							Y	美術史
コード ・ 意味	C	総合文化政策学部	C	総合文化政策学科	A	専門基礎科目 政策・マネジメント科目群 文化・思想科目群 メディア文化分野 都市・国際文化分野 アート・デザイン分野 演習科目	Z	デザイン学
							E	英語

桁数	1		2		3		4	
内容	学部等		学科等		教育課程上の区分(大)		教育課程上の区分(小)	
コード ・ 意味	R	社会情報学部	R	社会情報学科	A	フルリエゾン科目	A	社会情報総合
					B	基礎科目	B	統計科学
					C	基礎科目(数理系)	C	数学総合
					D	演習科目	D	経済学総合
					E	リエゾンA(社会・情報)科目	E	社会学
					F	リエゾンB(社会・人間)科目	F	政治学
					G	リエゾンC(人間・情報)科目	G	理論経済学
					H	エリア(社会)科目	H	経済政策
					I	エリア(情報)科目	I	財政・公共経済
					J	エリア(人間)科目	J	経済統計
W	W	地球社会共生学部	W	地球社会共生学科	K	専門自由科目	K	金融・ファイナンス
					L		L	経営学
					M		M	会計学
					N		N	情報学総合
					O		O	情報社会学
					P		P	情報学基礎理論
					Q		Q	マルチメディア・データベース
					R		R	情報ネットワーク
					S		S	ウェブ情報学
					T		T	情報セキュリティ
コード ・ 意味	L	外国语	L	外国语	A	英語基礎科目	E	英語
					B	英語展開科目	J	日本語
					A	StudySkill	A	StudySkill
					B	Fundamental	A	Fundamental
					C	Introductory	A	メディア／空間情報
					D	Basic	B	ソシオロジー
					E	Advanced	C	コラボレーション
					F	Capstone	D	ビジネス
					G	Japan Studies	A	Capstone
							A	Geography
コード ・ 意味	L	外国语	A	StudySkill			B	History
							C	Culture
							D	Economy, Business, and Policy
							A	英語
							B	タイ語

10. 諸規則

○ 青山学院大学 FD 規則

(2009年3月26日理事会承認)

(趣旨)
第1条 この規則は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）第25条の3に基づき、青山学院大学（以下「本学」という。）全体の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組みであるファカルティ・ディベロップメント活動（以下「FD活動」という。）について必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 本学のFD活動を適切に実施するため、次の委員会を置く。

- (1) 全学FD委員会
- (2) FD推進委員会

2 全学FD委員会は、FD活動を円滑に運営するために必要な事項等を審議する。

3 FD推進委員会は、FD活動の企画、立案及び実施に必要な事項等を審議する。

4 全学FD委員会及びFD推進委員会について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項は、別に定める細則による。

(所管)

第3条 この規則は、学務部教務課が所管する。

(改廃手続)

第4条 この規則の改廃は、全学FD委員会、学部長会及び教授会の議を経たのち、常務委員会及び理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附 則

この規則は、2009年3月27日から施行する。

○ 青山学院大学全学FD委員会運営細則

(2009年3月16日学部長会承認)

(趣旨)

第1条 この細則は、青山学院大学FD規則第2条第4項の規定に基づき、全学FD委員会（以下「FD委員会」という。）について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 FD委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 青山学院大学FD推進委員会運営細則第2条第1項に規定するFD推進委員会委員
- (2) 青山学院大学全学教務委員会規則（以下「全学教務委員会規則」という。）第2条第1項に規定する全学教務委員会委員
- (3) 全学教務委員会規則第9条に規定する全学教務委員会出席者

2 FD委員会が特に必要と認めるときは、委員以外の者に列席を求め、その意見を聞くことができる。

(委員長)

第3条 FD委員会に、委員長を置き、学務及び学生担当の副学長をこれに充てる。

2 委員長は、委員会を代表し、委員会の業務を統括する。

(副委員長)

第4条 FD委員会に、副委員長1名を置く。

2 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときには、委員長の職務を代行する。

4 副委員長の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(招集、開催及び定足数)

第5条 FD委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 FD委員会の定足数は、構成員の過半数とする。

(審議事項)

第6条 FD委員会は、次の事項を審議する。

- (1) FD活動全般に関する事項
- (2) FD推進委員会の審議結果に関する事項
- (3) その他FD活動を円滑に運営するために必要な事項

(審議結果)

第7条 委員長は、前条の審議結果を学長に報告するものとする。

(事務の所管)

第8条 FD委員会に関する事務は、学務部教務課が行う。

(改廃手続)

第9条 この細則の改廃は、FD委員会、学部長会及び教授会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この細則は、2009年3月27日から施行する。

○ 青山学院大学FD推進委員会運営細則

(2008年10月6日学部長会承認)

改正 2009年3月2日 2012年2月27日

(趣旨)

第1条 この細則は、青山学院大学FD規則第2条第4項の規定に基づき、FD推進委員会（以下「委員会」という。）について、構成、審議事項等、その運営に必要な事項を定めるものとする。

(構成)

第2条 委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 副学長（学務及び学生担当）
- (2) 専任教員の中から学長が指名する者 若干名
- (3) 事務職員の中から学長が指名する者 若干名

2 前項第2号及び第3号に規定する委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 委員会が特に必要と認めるときは、委員以外の者に列席を求め、その意見を聞くことができる。

(委員長)

第3条 委員会に、委員長を置き、前条第1項第1号に規定する副学長をこれに充てる。

2 委員長は、委員会を代表し、委員会の業務を統括する。

(副委員長)

第4条 委員会に、副委員長1名を置く。

2 副委員長は、委員長が委員の中から指名する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときには、委員長の職務を代行する。

4 副委員長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

(招集、開催及び定足数)

第5条 委員会は、必要に応じて委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会の定足数は、構成員の過半数とする。

(審議事項)

第6条 委員会は、次の事項を審議する。

(1) FD活動の啓発に関する事項

(2) FD活動の企画、立案及び実施に関する事項

(3) 学長の諮問する事項

(4) その他FD活動全般に関する事項

(審議結果)

第7条 委員長は、前条の審議結果を学長に報告するものとする。

(学生FDスタッフ)

第8条 必要な場合には、委員会の下に学生FDスタッフ(以下「スタッフ」という。)を置くことができる。

2 スタッフは、委員会の委員の指示により、FD活動に係る業務に当たる。

3 スタッフは、学部又は大学院研究科に在籍する学生で、FD活動への参加を希望する者の中から、委員会が任命する。

(事務の所管)

第9条 委員会に関する事務は、学務部教務課が行う。

(改廃手続)

第10条 この細則の改廃は、委員会及び学部長会の議を経て、学長がこれを行う。

附 則

この細則は、2008年10月7日から施行する。

附 則(2009年3月2日)

この細則は、2009年3月27日から施行する。

附 則(2012年2月27日)

この細則は、2012年4月1日から施行する。

○ 青山学院大学FDに係るデータ取扱に関する要領

(2009年2月4日制定)

(趣旨)

第1条 この要領は、学校法人青山学院個人情報保護に関する規則に基づき、青山学院大学のファカルティ・ディベロップメント(授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な取り組み。以下「FD」という。)活動において必要なデータの収集、集計と取り扱いについて、必要な事項を定める。

(目的)

第2条 データについては、以下の目的に使用される。

(1) FD活動における企画・立案に資する

(2) FD活動の報告に資する

2 前項以外の目的で、FD推進委員会(以下委員会)委員長が必要と認めたもの。

(データの範囲)

第3条 本要領が予定するデータとは、以下に掲げる各別から個人を特定できる情報を除いた匿名化データをいう。

(1) 広報入試センターが業務上収集する入試及び広報関連データ

(2) 学生部が管理するデータ

(3) 教務課が管理するデータ

(4) 進路・就職センターが業務上収集する就職関連データ

(5) 委員会が実施する調査データ・アンケートデータ

(6) その他委員会が必要とするデータ

(データの収集)

第4条 FD活動に関わる必要なデータは、委員長が各部署と協議の上、学長名に基づき収集を行う。

(データ管理責任者)

第5条 データ管理責任者は委員会委員長とし、データは、各部署より委員長宛に提出する。

(データ利用者と利用時の注意義務、集計場所及び目的外利用の禁止)

第6条 データは委員会で認められた集計目的にのみ用いられ、その集計は同委員会から委嘱された専任教員(以下データ利用者)が、委員長の任命を受けてこれを行う。

2 データ利用者は集計期間中、原データや中間生成ファイルの保管に遺漏なく努めなければならない。ネットワークを介した当該情報の漏洩や集計場所への第三者の立ち入り、保存メディアの管理に対し、データ利用者は細心の注意を払う義務を負う。

3 データの使用場所は、原則として本学内とするが、データに十分な匿名化処理が施されていて、かつ委員長が特に必要と認めた場合についてはこの限りでない。

(結果の公表と守秘義務)

第7条 データ利用者は、係る集計が終了した後、速やかに委員長に報告する。委員長は集計結果について、委員会の議を経たのち、必要に応じて公表することができる。結果の正規公表がなされない限り、データ利用者と及び委員会委員は、集計過程で知りえた情報を一切口外してはならない。

(データの利用期間と破棄)

第8条 委員会で認められた目的に係る集計が終了した後、データ利用者は、速やかに中間生成ファイルを含む全ての利用データを削除し、データ管理責任者は、データの破棄を確認するとともに、これを学長に報告しなければならない。

(事故等への対応)

第9条 前条及び前条以外の項目について、事故等が発生した場合は、「学校法人青山学院個人情報保護に関する規則」を準用するものとする。

(改廃手続)

第10条 この要領の改廃は、委員会が行う。

附 則

この要領は、2009年2月4日から施行する。

11. 全学FD委員会 委員一覧

○ 全学FD委員会委員（※1：FD推進委員会委員、※2：全学教務委員会委員）

氏名		所属等	備考
委員長	田中 正郎	副学長、経営学部	※1
副委員長	中野 昌宏	総合文化政策学部総合文化政策学科	※1
委員	杉谷 祐美子	教育人間科学部 教育学科 青山スタンダード教育機構副機構長	※1
委員	大道 千穂	経営学部マーケティング学科	※1
委員	大山 和寿	法学部法学科	※1
委員	米山 淳	理工学部電気電子工学科	※1
委員	伊藤 一成	社会情報学部社会情報学科	※1
委員	山口 直也	会計専門職大学院会計プロフェッショナル研究科	※1
委員	菅野 治男	事務局長／～2019年1月	※1
委員	馬場 俊和	学務部 部長／～2019年1月 事務局長／2019年1月～	※1、2
委員	竹田 治世	学務部 教育支援課 課長	※1
委員	鳥海 貴裕	学務部 教育支援課 主任	※1
委員	川原 愛美	学務部 教育支援課	※1
委員	萩原 とよ子	相模原事務部 学務課 主任	※1
委員	白濱 哲郎	政策・企画部 部長	※1
委員	塩谷 直也	大学宗教部長	※2
委員	尾形 こづえ	文学部	※2
委員	平山 栄治	教育人間科学部	※2
委員	松本 茂	経済学部	※2
委員	松田 憲忠	法学部	※2
委員	尹 志煌	経営学部	※2
委員	陳 繼東	国際政治経済学部	※2
委員	飯笛 佐代子	総合文化政策学部	※2
委員	増田 哲	理工学部	※2
委員	石田 博之	社会情報学部	※2
委員	岡本 真佐子	地球社会共生学部	※2
委員	青木 弘美	相模原事務部 学務課 課長	※2、2018年6月～
委員	押村 高	副学長、国際政治経済学部	
列席者	乃美 浩一	学務部 教務課 課長	
列席者	丸山 絵美	政策・企画部	

2018 年度

青山学院大学 FD 活動報告書

発 行 日 2019 年 10 月 1 日

発 行 青山学院大学 全学 FD 委員会

政策・企画部

150-8366 東京都渋谷区渋谷 4-4-25 8 号館 3 階

Tel. 03-3409-4165 Fax. 03-3409-9423

発行責任者 田中 正郎

150th
140th